

H24-D1-3 52.85～56.88m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	報告書柱状図記事
		コア観察カードから正しく転記されているか ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか ☒				選定した記事内容
178	52.85	52.93	52.85	52.93	上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さDが残留する。45～60°の連続性が乏しく低い低密着割れ目の一部に幅1～4mmの白色～にぶい橙色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さDが残留する。45～60°の連続性が乏しく低い低密着割れ目の一部に幅1～4mmの白色～にぶい橙色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	52.85	52.93	52.85～52.93m:上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さDが残留する。傾斜45～60°の連続性が乏しく低い低密着割れ目の一部に幅1～4mmの白～にぶい橙色の軟質粘土が付着する。
179	52.93	53.29	52.93	53.29	40～50°と70～75°の割れ目と低密着割れ目からなる。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。	40～50°と70～75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。	52.93	53.29	52.93～53.29m:傾斜40～50°と70～75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。
180	53.29	53.50	53.29	53.50	互いに交差する50～70°割れ目。低密着割れ目からなる。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白～風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。薄片は硬さ「C」～「D」である。	互いに交差する50～70°割れ目。低密着割れ目が分布する。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白～風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。薄片は硬さ「C」～「D」である。	53.29	53.50	53.29～53.50m:互いに交差する傾斜50～70°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白～風化による黄褐色の軟質粘土が付着する。薄片は硬さ「C」～「D」である。
181	53.50	53.62	-	-	著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土膜が幅1～3mmで網状に分布する。	-	53.50	53.62	53.50～53.62m:著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土膜が幅1～3mmで網状に分布する。
182	53.62	54.20	53.62	54.20	硬さ「C」ないし「D」で、40～50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目は粘土膜は挟まないが、一部で薄く砂状化～ゆ2～3mmの線状軟化部を挟む。	硬さ「C」ないし「D」で、40～50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土膜は挟まないが、一部で薄く砂状化～ゆ2～3mmの線状軟化部を挟む。硬さに定向配列は見られない。	53.62	54.20	53.62～54.20m:傾斜40～50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土膜は挟まないが、一部で薄く砂状化～ゆ2～3mmの線状軟化部を挟む。硬さに定向配列は見られない。
183	54.20	54.20	54.20	54.20	45°割れ目は幅3～6mmで砂状～硬砂層を挟むが、マンガン鉱染により黒褐色化する。	45°割れ目は幅3～6mmの粘土質～シルト質砂～硬砂層を挟む。がマンガン鉱染により黒褐色化する。	54.20	54.20	54.20m:傾斜45°で幅3～6mmの粘土～シルト質の砂～層を挟む。
184	54.20	55.18	54.20	55.18	互いにほぼ直交する50～60°割れ目が主体で、54.83m～55°割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目は砂状化部や粘土膜は挟まない。薄片は硬さBで比較的割れ目は少ない。	互いにほぼ直交する50～60°割れ目が主体で、54.83m～55°割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目は砂状化部や粘土膜は挟まない。薄片は硬さBで比較的割れ目は少ない。	54.20	55.18	54.20～55.18m:互いにほぼ直交する傾斜50～60°の割れ目が主体で、54.83mの傾斜50°の割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土膜は挟まない。比較的割れ目は少ない。
185	55.18	56.71	55.18	56.71	40～60°割れ目とこれらに斜交～直交する40～50°が主体で、55.53m以下では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土膜は分布しない。	40～60°割れ目とこれらに斜交～直交する40～50°が主体で、55.53m以下では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土膜は分布しない。	55.18	56.71	55.18～56.71m:傾斜40～60°の割れ目とこれらに斜交～直交する傾斜40～50°の割れ目が主体で、55.53m以下では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土膜は分布しない。
186	55.49	55.53	55.49	55.53	55.49m～55°と55.53m～48°の両割れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化(緑泥石化)し、各割れ目自体1mmが風化で褐色の砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。	55.49m～55°と55.53m～48°の両割れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化(緑泥石化)し、各割れ目自体1mmが風化で褐色の砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。	55.49	55.53	55.49m～55°と55.53m～48°の両割れ目に囲まれた部分は緑泥石化により淡緑灰色化し、各割れ目自体に幅1mmが風化で褐色化した砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着する。
187	56.49	56.49	56.49	56.49	15°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている(変位量3～10mm右ズレ)。	15°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っ迫している変位量3～10mm右ズレ。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	56.49	56.58	56.49m・15°及び56.58m～55°の割れ目は、いずれも交差する割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
188	56.58	56.58	56.58	56.58	55°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている(変位量2～3mm右ズレ)。	55°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っ迫している変位量2～3mm右ズレ。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	-
189	56.71	56.88	56.71	56.88	40～60°割れ目。低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1～2mmの軟質灰白色粘土は挟むことが多い。	40～60°割れ目。低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1～2mmの軟質灰白色粘土を挟むことが多い。	56.71	56.88	56.71～56.88m:傾斜40～60°の割れ目。低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1～2mmの軟質灰白色粘土を挟むことが多い。

H24-D1-3 56.71～58.53m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
記事		記事		記事		記事		記事		記事	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度
コア観察カードから正しく転記されているか？				追加変更した情報が正しく転記されているか？				選定した記事内容			
☒				☒							
190	56.71	56.71	45° 割れ目は幅1～2mmの軟質な灰白色粘土脈をはさみ、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出している。	56.71	56.71	45° 割れ目は幅1～2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出している。	記事を削除・変更・追記した理由	56.71	56.71	56.71m: 傾斜45°で幅1～2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出する。	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
191	56.88	57.24	破砕帯	56.88	57.24	破砕帯	・用語の統一(破砕帯→破砕部)			●56.88～57.24m: 破砕部 56.88～57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシヤープに、下端58°で波打って連続。径5～20mmの粘土化～硬さ[D]の岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色～白色を呈する。 57.15～57.20m: 軟質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1～2mmの石英粒、径5～30mmの粘土化した花崗斑岩の礫を多く含む。やや軟質。明褐色～オリーブ灰～灰白色で絹状を呈する。幅20～28mm。 57.20m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打って、下端60°で直線的にシヤープに連続。軟質で細かい黄褐色を呈する。幅2～8mm。 57.20～57.24m: 粘土混じり岩片状部(Hd) 上端60°で直線的にシヤープに、下端60°で一部不明瞭に連続。径5mm前後の粘土化～硬さ[D]の花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
192	56.88	57.15	H ₁ 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシヤープに、下端は波打って連続。径5～20mmの粘土化～硬さ[D]の岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長)	56.88	57.15	H ₁ 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシヤープに、下端は波打って連続。径5～20mmの粘土化～硬さ[D]の岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長) やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質、混じり)				
193	57.15	57.20	H ₂ 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒、径5～30mmの粘土化したCa脈を多く含む軟質な硬質粘土で色調は明褐色(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰白(2.5GY 8/1)が網状に分布。厚さ20～28mm。	57.15	57.20	H ₂ 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒、径5～30mmの粘土化したCa脈を多く含む軟質な硬質粘土で色調は明褐色(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰白色(2.5GY 8/1)が網状に分布。厚さ20～28mm。 細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) ・解説の修正(「色」の記載漏れ) ・土位と同様な硬さであるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	56.88	57.24		
194	57.20	57.20	(主せん断面)Hc-1 60°、厚さ2～8mmの軟質な細かい黄褐色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシヤープに連続する。	57.20	57.20	(最新活動面)Hc-1 90°、厚さ2～8mmの軟質な細かい黄褐色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシヤープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
195	57.20	57.24	H ₃ 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さ[D]のCa岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	57.20	57.24	H ₃ 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さ[D]のCa岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。 やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(軟質⇒軟質、混じり) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・解説の修正(「色」の記載漏れ)				
196	57.24	58.03	40°～60° 割れ目、低密度割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟質な灰白色粘土脈も一部に挟まれる。	57.24	58.03	40°～60° 割れ目、低密度割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟質な灰白色粘土脈も一部に挟まれる。	・表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む)	57.24	58.03	57.24～58.03m: 傾斜40°～60°の割れ目、低密度割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟質な灰白色粘土脈も一部に挟まれる。	
197	57.90	57.94	40° 割れ目、割れ目に砂状化が進み、57.90m～40° 割れ目、割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	57.90	57.94	40° 割れ目、割れ目に砂状化が進み、57.90m～40° 割れ目、割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	・表現の適正化(沿い)	67.00	67.04	57.90～57.94m: 傾斜40°の割れ目沿いに砂状化が進み、上端側の割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。	
198	-	-	-	58.00	58.00	傾斜60°、幅8～10mmでマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。	・マンガン濃集部は周囲と異なる状況であるため追記した	58.00	58.00	58.00m: 傾斜60°で幅8～10mmのマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。	
199	58.03	58.29	互いに交差する50°～60°からなる。一部で同角の低密度割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	互いに交差する50°～60°の割れ目が分布する。一部で同角の低密度割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	・表現の適正化(角⇒角度) ・文章の適正化(からなる⇒割れ目が分布する)	58.03	58.29	58.03～58.29m: 互いに交差する傾斜50°～60°の割れ目と一部で同角の低密度割れ目が分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	
200	58.29	58.53	(岩級区分)D	58.29	58.53	(岩級区分)DL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	58.29	58.53	(岩級区分)DLに含める	
201	58.29	58.53	φ5～30mmの硬さ[C]岩片と綿った砂状の基質からなる角礫状構造部(カタクレーサイト)で、58.33m～40° 割れ目に厚さ0.5～3mmの軟質な灰白色(2.5YR 8/2)粘土脈を伴う。	58.29	58.53	φ5～30mmの硬さ[C]岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状構造部(カタクレーサイト)で、58.33m～20° 割れ目に厚さ0.5～3mmの不連続で軟質な灰白色(2.5YR 8/2)粘土脈を伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる礫に移動や回転は見られない。 ・表現の適正化(綿った⇒硬質、角礫構造部⇒角礫状、軟質⇒軟質)	・含まれる礫に移動や回転は見られないため「カタクレーサイト」を削除した ・58.33mの割れ目の傾斜をコアに合わせて変更した ・存在する粘土の連続性について追記した ・原岩組織が認められる礫に移動や回転は見られない。 ・表現の適正化(綿った⇒硬質、角礫構造部⇒角礫状、軟質⇒軟質)	58.29	58.53	58.29～58.53m: 径5～30mmの硬さ[C]岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状部で、58.33mの傾斜20°の割れ目に幅0.5～3mmの軟質な灰白色粘土脈を不連続に伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる礫に移動や回転は見られない。	

H24-D1-3 58.40～59.46m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? ☒	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
202	58.40	58.46	-	-	-	-	58.40	58.46	58.40～58.46m: 一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
203	58.53	60.00	58.53	60.00	互いに交差する30～70° 割れ目。低密度割れ目が主体で上端側の58.53～58.91mと、下端側の59.90～60.00mはいずれも径さCで、その他は径さBである。また、58.66～58.71mは砂状化と実質が通んで著しく軟化した径さEである。 径さBの58.91～59.90mでは割れ目は多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。	- 表観の適正化(軟質化)	58.53	60.00	58.53～60.00m: 互いに交差する傾斜30～70° の割れ目。低密度割れ目が主体で、58.66～58.71mは砂状化と実質が通んで著しく軟質化している。58.91～59.90m間は割れ目が多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。	- 記事欄以外から読み取れる傾きの情報は記載しない
204	59.90	60.00	59.90	60.00	割れ目沿いにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。	- 表観の適正化(沿い、やや)	59.90	60.00	59.90～60.00m: 割れ目沿いに風化がやや進み、薄く砂状化するものがある。	-
205	59.46	59.46	59.46	59.46	45° 割れ目沿いに幅5～10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は含まれない。	- 表観の適正化(沿い、挟む) - 風物名を適正化した(雲母⇒白雲母)	59.46	59.46	59.46m: 傾斜45° の割れ目沿いに幅5～10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は含まれない。	-
206	60.00	60.00	60.00	60.00	60mで横尺	- コア観察の情報ではないため削除した	-	-	-	-

余白

H24—D1—2

H24-D1-2 0.00~9.06m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒					
1	-		0.00	6.81	盛土	・地質者に合わせて盛土の区間を適正化した	0.00	6.81	0.00~6.81m:盛土	-
2	0.00	0.31		0.00	0.31	・最大3cm 黒色の細粒砂岩・泥岩片からなる。	0.00	0.31	0.00~0.31m: 礫 最大径30mmの黒色の細粒砂岩、泥岩片からなる。	-
3	0.31	2.84	0.31	2.84	砂礫 φ最大3×6cmの角礫だが、大半は10mm以下の細礫〜粗砂からなる。粒度不均だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗斑岩あるいはアブライト起源であるが稀に黒色の泥岩片を含む。	・区間深度を適正化した ・表裏の適正化(max⇒最大、min⇒最小、不均⇒不均質) ・表記の修正(「成」の記載消滅) ・コアに合わせて岩種名を変更した	0.31	2.84	0.31~2.84m: 砂礫 最大径30×60mmの角礫であるが、径10mm以下の細礫〜粗砂を主体とする。粒度は不均質であるが、細粒分は極少量であり、ルーズである。礫は花崗斑岩、アブライト主体であるが、まれに黒色泥岩を含む。	-
4	2.84	6.81	2.84	6.81	シルト質砂礫 φ最大16cm、大半が花崗斑岩礫だが、アブライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締まりが良い。	・区間深度を適正化した ・表裏の適正化(max⇒最大、見る やや)	2.84	6.81	2.84~6.81m: シルト質砂礫 最大径160mmの花崗斑岩礫が主体で、アブライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締まりが良い。	-
5	3.3	3.45	3.30	3.45	泥岩礫が混じる。	・表裏の統一(3.30) ・コアに合わせて岩種を変更した	3.30	3.45	3.30~3.45m: 泥岩礫が混じる。	-
6	-	-	3.82	3.82	径4mmのモルタル片を含む	・モルタル片は断面と異なる状況であるため適正化した	3.82	3.82	3.82m: 径40mmのモルタル片を含む。	-
7	4.00	6.81	4.00	6.81	(色調欄)記載なし	・コアに合わせて色調を適正化した	4.00	6.81	(色調欄)にふい黄	-
8	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35m付近に炭質物片あり。	・炭質物の大きさを適正化した	4.35	4.35	4.35m: 径50mmの炭質物片を含む。	-
9	6.81	6.81	-	-	6.81mで層岩		-	-	-	・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はない
10	-	-	6.81	33.00	6.81~33.00m 花崗斑岩 φ2~10mmの石英と長石の斑晶からなる花崗斑岩(Qz)で、長石は白濁化している。 21.12m以降は所々、アブライトに近い岩相を呈する。	・地質者及び区間深度を適正化した ・長石の白濁化が認められる深度を適正化した ・アブライトに近い岩相があることを示し、その深度を適正化した	6.81	33.00	6.81~33.00m 花崗斑岩 斑晶は径2~10mmの石英と長石からなる。深度10.58m以下の長石は白濁化している。21.12m以降は所々、アブライトに近い岩相を呈する。	-
11	6.81	10.58	6.81	10.58	40~60°の割れ目と低密度割れ目が主体で、一部でこれらに斜交し直交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。	・表裏の適正化(礫む、軟質⇒軟質)	6.81	10.58	6.81~10.58m: 傾斜40~60°の割れ目と低密度割れ目が主体で、一部でこれらに斜交し直交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。	-
12	7.05	7.63	7.05	7.63	(コアの形状欄)IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	7.05	7.63	(コアの形状欄)IVランク	-
13	7.10	7.10	7.10	7.10	60°の割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土脈を挟む。	・表裏の適正化(礫む、軟質⇒軟質)	7.10	8.11	7.10m、8.11m: 傾斜45~30°で幅0.5~2mmの白色軟質粘土脈を挟む。	・記事内容が同じであるため、8.11mの記事を含めて記載した
14	8.11	8.11	8.11	8.11	45°の割れ目に 幅1~2mm白色軟質粘土脈を挟む。	・表裏の適正化(礫む、軟質⇒軟質)	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
15	8.11	8.32	8.11	8.32	(コアの形状欄)IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	8.11	8.32	(コアの形状欄)IVランク	-
16	8.47	9.49	8.47	9.49	(コアの形状欄)IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	8.47	9.49	(コアの形状欄)IVランク	-
17	-	-	8.56	8.56	傾斜55°の割れ目に沿って幅2~3mmが炭色化した、微細な白雲母が晶出する。	・緑色化や炭物の晶出は断面と異なる状況であるため適正化した	8.56	8.56	8.56m: 傾斜55°の割れ目沿いに幅2~3mmが炭色化した、微細な白雲母が晶出する。	-
18	8.89	8.89	8.89	8.89	55°の傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上層の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化。	・上層側が必ずしも上層とは異なるため上層に変更した ・粘土の連続性及び層間岩盤の状況について適正化した ・せん断を考慮する状況は見られない ・上記及び適正化した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表裏の適正化(軟質⇒軟質)	8.89	8.89	8.89m: 傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。上層側にはマンガン鉱染で黒色化した幅2mmの砂を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
19	9.06	9.06	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。長石を切断。	・石英脈が横断するカリ長石は石英脈を挟んでズレていないことを適正化した。「長石を切断」を削除した ・粘土の挟むの有無及び石英脈の層間岩盤の状況について適正化した	9.06	9.06	9.06m: 傾斜52°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断するカリ長石は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟むは見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H24-D1-2 9.54~12.97m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事									
記事		記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事		記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事		記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を書き添えて表示) (変更していないものは「-」で表示)						
上端深度	下端深度			上端深度	下端深度			上端深度	下端深度								
コア観察カードから正しく転記されているか?				適正化された記事内容				報告書柱状図記事									
[V]				[V]				適正化された記事内容									
20	-	-	-	9.54	9.61	傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。	マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	9.54	9.61	9.54~9.61m:傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。	-						
21	-	-	-	9.77	9.77	傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。	褐色化の著しい酸化汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	9.77	9.77	9.77m:傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。	-						
22	9.80	10.00	-	9.80	10.00	コアの形状欄 IVランク	コアの形状欄 IVランク	9.80	10.00	コアの形状欄 IVランク	-						
23	10.21	10.21	-	10.21	10.21	45°幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。 φ5mm石英脈品を切断している。	45°幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。 石英脈が横断する石英脈品は石英脈を挟んでズレていない。 φ5mm石英脈品を切断している。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	10.21	10.21	10.21m:傾斜45°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する石英脈品は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-						
24	10.58	11.53	-	10.58	11.53	50~55°割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布。上端部の10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目のせん断割れ目群を形成している。	50~55°割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布。上端部の10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目のせん断割れ目群を形成している。一部、割れ目が石英脈品を横断しているが、石英脈にズレは認められない。割れ目には挟入物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	10.58	11.53	10.58~11.53m:傾斜50~55°の割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布する。10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目群を形成している。一部、割れ目が石英脈品を横断しているが、石英脈にズレは認められない。割れ目には挟入物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-						
25	11.53	11.67	-	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	11.53	11.67	11.53~11.67m:全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	-						
26	11.67	11.95	-	11.67	11.95	10°と40°割れ目が細かく分布し、φ20~30mmに岩片化する。	傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、φ20~30mmに岩片化する。	11.67	11.95	11.67~11.95m:傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、φ20~30mmに岩片化する。	-						
27	11.95	12.13	-	11.95	12.13	割れ目ぞいに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くあり、全体に軟質化著しい。	割れ目ぞいに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くあり、全体に軟質化著しい。 コアに合わせた色調を変更した。	11.95	12.13	11.95~12.13m:割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くあり、全体に軟質化が著しい。	-						
28	12.13	12.38	-	12.13	12.38	12.30mに62°割れ目が残存するが、これ以外に風化で割れ目は消滅している。	12.30mに62°割れ目が残存するが、これ以外に風化で割れ目は消滅している。	-	-	-	-						
29	12.38	12.97	-	12.38	12.97	破砕部(10~11割層?)	破砕部(10~11割層?) 断層帯は評価であるため削除した。	-	-	●12.38~12.97m:破砕部 12.38~12.86m:粘土混じり硬状部(H) 上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体に土色(7.5YR 6/3)を呈する。 12.86~12.97m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。 12.87~12.97m:粘土混じり硬状部(H) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。	-						
30	12.38	12.86	-	12.38	12.86	H1 粘土混じり硬状破砕部 上端60°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。硬質。岩組織は残存するが、割れ目は殆んど消滅した著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈が分布する粘土混じり硬状部。全体的な色調は土色(7.5YR 6/3)を呈する。含まれる組織は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。厚さ400mm(コア長)で、12.65mに交差する割れ目を切る(変位量2mm右ズレ)せん断面が分布する。	H1 粘土混じり硬状破砕部 上端60°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。硬質。岩組織は残存するが、割れ目は殆んど消滅した著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈が分布する粘土混じり硬状部。全体的な色調は土色(7.5YR 6/3)を呈する。含まれる組織は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	12.38	12.86	●12.38~12.97m:破砕部 12.38~12.86m:粘土混じり硬状部(H) 上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体に土色(7.5YR 6/3)を呈する。 12.86~12.97m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。 12.87~12.97m:粘土混じり硬状部(H) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。	-						
31	12.86	12.87	-	12.86	12.87	Hc-1 粘土状硬状部 (最新活動面・12.86m) (最も直線的な部) 上端、下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。φ1mm前後の石英粒を少量含むやや硬質な灰白~灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	Hc-1 粘土状硬状部 (最新活動面・12.86m) (最も直線的な部) 上端、下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。φ1mm前後の石英粒を少量含むやや硬質な灰白~灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	12.38	12.97	●12.38~12.97m:破砕部 12.38~12.86m:粘土混じり硬状部(H) 上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体に土色(7.5YR 6/3)を呈する。 12.86~12.97m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。 12.87~12.97m:粘土混じり硬状部(H) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。	-						
32	12.87	12.91	-	12.87	-	H1 粘土混じり硬状部 上端45°、下端45°で、両者とも不明瞭に連続。著しく軟化した硬さEの岩片と、45°幅0.5~1mmの軟質な粘土脈を少量含む粘土混じり岩片状を呈する。にぶい黄褐色(10YR 7/4)で厚さ40mm。	H1 粘土混じり硬状部 上端45°で直線的でシャープに連続。下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。 含まれる組織は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	12.87	-	●12.38~12.97m:破砕部 12.38~12.86m:粘土混じり硬状部(H) 上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟化したφ10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体に土色(7.5YR 6/3)を呈する。 12.86~12.97m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。 12.87~12.97m:粘土混じり硬状部(H) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。	-						
33	12.91	12.97	-	-	12.97	-	-	-	-	-	-						

H24-D1-2 12.87~17.66m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒								
34	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hb	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hb	上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した。	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hb	-		
35	12.97	15.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ[D]からなる。割れ目ぞいに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土質の分布は少ない。割れ目は40~60°が主体である。	12.97	16.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ[D]からなる。割れ目ぞいに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土質の分布は少ない。割れ目は40~60°が主体である。	・記載の修正(15.24⇒16.24) ・表現の適正化(近い)	12.97	16.24	12.97~16.24m:上位に比べ割れ目は少ない。割れ目ぞいに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土質の分布は少ない。傾斜40~60°の割れ目が主体である。	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
36	13.15	13.46	10~20°の割れ目が多く、割れ目ぞいは風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	13.15	13.46	10~20°の割れ目が多く、割れ目ぞいは風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	・表現の適正化(近い)	13.15	13.46	13.15~13.46m:傾斜10~20°の割れ目が多く、割れ目ぞいは風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	-		
37	13.73	13.77	55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線、かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	13.73	13.77	55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線、かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	・挟む粘土について追記した ・表現の適正化(軟質化)	13.73	13.77	13.73~13.77m:傾斜55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線的にシャープに分布する。粘土化はないが、全体に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	-		
38	-	-	-	13.82	13.89	不規則な形状で褐色化している。	・褐色化の不規則な形状は周囲と異なる状況であるため追記した。	13.82	13.89	13.82~13.89m:不規則な形状で褐色化する。	-		
39	14.20	14.20	50°幅1mmで石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	-	14.20	14.20	14.20m:傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-		
40	14.30	14.30	45°割れ目を中心に、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。	14.32	14.32	45°割れ目に沿って、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。	・コアに合わせて深度を変更した ・表現の適正化(伴う) ・文章の適正化(中心)⇒沿って	14.32	14.32	14.32m:傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化するが、粘土化などの劣化は伴わない。	-		
41	14.87	14.97	14.87m・60°と、14.97m・62°のせん断性割れ目で、前者は交差する80°割れ目を切り、後者は長石斑晶を横断している。	14.87	14.97	14.87m・60°と、14.97m・62°のせん断性割れ目は、前者は交差する80°割れ目を止めている。切り、後者は長石斑晶を横断しており、切断しているが、両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・14.87mの割れ目と交差する80°の割れ目は、この割れ目まで止まっていたが、別になる割れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切る」を止めているに要変更した ・14.97mの割れ目が長石斑晶を切断するとしているが、割れ目は長石を横断しているがズレは認められないため「切断」を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	14.87	14.97	14.87m・60°の割れ目は交差する80°の割れ目を止めており、14.87m・62°の割れ目は長石斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また、これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-		
42	15.10	15.28	15.10m・65°と15.28m・55°のせん断性割れ目で、前者は交差する割れ目を切り、後者は石英斑晶を切っている。	15.10	15.28	15.10m・65°と15.28m・55°のせん断性割れ目は、前者は長石斑晶を横断しており、ズレは認められない。切り、後者は石英斑晶を横断しており、切断しているが、両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・15.10mの割れ目は横断する長石斑晶をずらしてないため「切る」を削除した ・15.28mの割れ目は横断する石英斑晶をずらしておらず、横断する割れ目が見られるため「切る」を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	15.10	15.28	15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し、15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また、これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-		
43	15.47	-	15.47m以深では、割れ目ぞいに幅1~2mmで風化により褐色化する。	15.47	-	15.47m以深では、割れ目ぞいに幅1~2mmで風化により褐色化する。	・表現の適正化(近い)	15.47	-	15.47m以深では、割れ目ぞいに幅1~2mmで風化により褐色化する。	-		
44	16.12	16.12	60°割れ目ぞいに微小な金属鉱物が晶出している。	16.12	16.12	60°割れ目ぞいに微小な金属鉱物が晶出している。	・表現の適正化(近い)	16.12	16.12	16.12m:傾斜60°の割れ目ぞいに微小な金属鉱物が晶出する。	-		
45	16.24	17.66	コアは全体に著しく軟化する[E]であるが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	16.24	17.66	コアは全体に著しく軟化する[E]であるが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	・表現の適正化(軟質化、原岩組織)	16.24	17.66	16.24~17.66m:コア全体が著しく軟化するが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
46	16.54	16.54	90°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目は挟在物はないが、1mm程度風化で褐色に砂状化。	16.54	16.54	90°のせん断性割れ目と交差する割れ目は止まっている。切っている。割れ目は挟在物はないが、幅1mm程度風化で褐色に砂状化。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・90°の割れ目は交差する割れ目を止めているが、別になる割れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切っている」を止めて、切っているに変更した ・割れ目および割れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・傾斜の修正(「傾」の記載漏れ)	16.54	16.54	16.54m:傾斜90°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目に挟在物は見られないが、幅1mm程度が風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-		
47	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	-		
48	17.05	17.30	φ50~100mmと従来より大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	17.05	17.30	φ50~100mmと従来より大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	・傾斜の修正(50~100mm⇒5~10mm) ・比較対象が曖昧であるため、「従来より」を削除した	17.05	17.30	17.05~17.30m:径5~10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	-		
49	17.46	17.66	φ10~20mm前後の細片化。割れ目状況は不明	17.46	17.66	φ10~20mm前後に細片化。割れ目状況は不明	・表現の適正化(「の」⇒「に」) ・割れ目のどのような状況を示しているか不明であるため削除した	17.46	17.66	17.46~17.66m:径10~20mm前後に細片化する。	-		

H24-D1-2 17.66～21.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 記事(変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒					選定した記事内容	
50	17.66	17.78	17.66	17.78	50 17.66 17.78 割れ目は少なく、30°～60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。	50 17.66 17.78 割れ目は少なく、30°～60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。	・表視の適正化(挟む)	17.66	17.78	17.66～17.78m:上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30°～60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。	-
51	-	-	18.10	18.10	51 18.10 傾斜40°の割れ目に幅1～2mmのマングンを挟む。	51 18.10 傾斜40°の割れ目に幅1～2mmのマングンを挟む。	・マングンは周囲と異なる状況であるため追記した	18.10	18.10	18.10m:傾斜40°の割れ目に幅1～2mmのマングンを挟む。	-
52	18.21	18.21	18.21	18.21	52 18.21 58°割れ目は、割れ目沿い幅1～2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な雲母が晶出している。	52 18.21 58°割れ目は、割れ目沿い幅1～2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な雲母が晶出している。	・鉱物者を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表視の適正化(拾い) ・傾記の修正(「傾」の記載漏れ)	18.21	18.21	18.21m:傾斜58°の割れ目沿いに幅1～2mmで風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出する。	-
53	-	-	18.41	18.41	53 18.41 傾斜50°、幅1mmの白色粘土を挟む。	53 18.41 傾斜50°、幅1mmの白色粘土を挟む。	・白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	18.41	18.41	18.41m:傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。	-
54	18.77	18.77	18.77	18.77	54 18.77 55°はせん断性割れ目で、幅2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。	55°のせん断性割れ目は、幅2mmの連続性に乏しい軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。55°割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表視の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) ・粘土の連続性について追記した ・割れ目及び周辺の状況を追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	18.77	18.77	18.77m:傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
55	18.97	18.97	18.97	18.97	55 18.97 58°割れ目沿いマングン鉱染で黒褐色化する。	58°割れ目沿いマングン鉱染で黒褐色化する。	・表視の適正化(拾い) ・傾記の修正(「正」の記載漏れ)	18.97	18.97	18.97m:傾斜58°の割れ目沿いにマングン鉱染で黒褐色化する。	-
56	-	-	19.01	19.01	56 19.01 風化残留部でやや硬質。	56 19.01 風化残留部でやや硬質。	・風化残留部は周囲と異なる状況であるため追記した	19.01	19.01	19.01～19.21m:風化残留部でやや硬質である。	-
57	19.01	19.21	19.01	19.21	57 19.01 (コアの硬さ欄)Oランク	57 19.01 (コアの硬さ欄)Oランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをOランクに変更した	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Oランク	-
58	19.30	19.30	19.23	19.30	58 19.30 62°割れ目沿い幅5～15mmは砂状化～細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マングン汚染により黒色化している。	19.23m及び19.30mの62°割れ目沿い幅5～15mmは砂状化～細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マングン汚染により黒色化している。	・19.23mの割れ目も含めたため幅の最小値を変更した ・マングン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した ・表視の適正化(拾い)	19.23	19.30	19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅5～15mmで砂状～細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マングン汚染により黒色化している。	-
59	19.57	19.78	19.57	19.78	59 19.57 (コアの形状欄)Vランク	59 19.57 (コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	19.57	19.78	(コアの形状欄)Vランク	-
60	-	-	19.57	19.61	60 19.57 傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマングン汚染が顕著。	60 19.57 傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマングン汚染が顕著。	・傾斜のマングン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	19.57	19.61	19.57～19.61m:傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下端側は幅10mmでマングン汚染が顕著に見られる。	-
61	19.78	19.87	19.78	19.87	61 19.78 破砕部H(最新活動面・19.87m)上端53°、下端63°で両者と直線的でシャープに連続する。φ1～3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したOp岩片を含む硬質粘土でやや硬質。浅黄褐色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mmと幅幅により変動する。	破砕部H(最新活動面・19.82m)上端53°、下端63°で両者と直線的でシャープに連続する。φ1～3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したOp岩片を含む硬質粘土と破砕部でやや硬質。浅黄褐色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mmと幅幅により変動する。 19.82mには幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟む。 含まれる細粒部は割れ目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・傾斜の統一(破砕部一破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最も直線的であるため最新活動面の深度を変更した ・破砕部であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・19.82mの粘土について追記した ・表視の適正化(やや、硬⇒やや硬質) ・「場所により」は不適な表現であるため削除した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	19.78	19.87	●19.78～19.87m:破砕部粘土混じり層を部(H)上端53°、下端63°とともに直線的でシャープに連続する。径1～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅10～50mmと幅幅により変動する。19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟む。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の存在。境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
62	19.78	19.87	19.78	19.87	62 19.78 (割れ目形状欄)Oランク(コアの形状欄)Vランク(コアの硬さ欄)Oランク(変質欄)Aランク(破砕度区分欄)H	(割れ目形状欄)Oランク(コアの形状欄)Vランク(コアの硬さ欄)Oランク(変質欄)Aランク(破砕度区分欄)H	・コアは極めて軟質で、変質を強く受けており、割れ目が非常に多く、割れ目として認識できないものも存在するため、割れ目形状、コアの形状、コアの硬さ、変質の各ランクを変更した ・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した	19.78	19.87	(割れ目形状欄)Oランク(コアの形状欄)Vランク(コアの硬さ欄)Oランク(変質欄)Aランク(破砕度区分欄)H	-
63	19.87	19.96	19.87	19.96	63 19.87 (コアの形状欄)Vランク	63 19.87 (コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	19.87	19.96	(コアの形状欄)Vランク	-
64	19.87	20.56	19.87	20.59	64 19.87 60°割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟弱粘土脈をはさむ。	60°割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟弱粘土脈をはさむ。	・コアに合わせて下端深度を変更した(20.59mは硬軟のランクの境界) ・粘土の色調を追記した ・表視の適正化(傾、挟む、軟弱⇒軟質)	19.87	20.59	19.87～20.59m:傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	-
65	20.58	21.50	20.59	21.50	65 20.58 直上位と同様、60°割れ目からなるが、直上位よりも硬質で、硬さ「C」となる。	直上位と同様、60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質で、硬さ「C」となる。	・コアに合わせて下端深度を変更した(20.59mは硬軟のランクの境界) ・コアに合わせて硬軟を変更した ・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	20.59	21.50	20.59～21.50m:直上位と同様、傾斜60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-2 20.59～22.32m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ✓			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ✓					
66	20.59	21.50	(岩級区分欄)GM	20.59	21.50	(岩級区分欄)OL	20.59	21.50	(岩級区分欄)OLに含める	-
67	20.56	20.56	(コアの硬さ欄)Ⅱ/Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ/Ⅲランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)Ⅱ/Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ/Ⅲランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)Ⅱ/Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ/Ⅲランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	-
68	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布。上下端はよく密着している。このすぐ上盤側にはφ10mmの大型の長石斑晶が分布する。	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布。上下端はよく密着している。このすぐ上盤側にはφ10mmの大型の長石斑晶が分布する。	20.74	20.77	20.74～20.77m: 傾斜30°で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し、上下端は密着する。上端側には径10mmの大型の長石斑晶が分布する。	-
69	20.90	20.90	65° 割れ目ぞいに微細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。	20.90	20.90	65° 割れ目ぞいに微細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化している。	20.90	20.90	20.90m: 傾斜65°の割れ目ぞいに微細な白雲母が晶出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。	-
70	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅲランク	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅳランク	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅳランク	-
71	21.05	21.30	80°～90°の低密着割れ目2～3本が分布し、割れ目ぞいにマンガン鉱染うつる。	21.05	21.30	80°～90°の低密着割れ目2～3本が分布し、割れ目ぞいにマンガン鉱染うつる。	21.05	21.30	21.05～21.30m: 傾斜80°～90°のマンガン鉱染を伴う低密着割れ目が2～3本分布する。	-
72	-	-	-	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアブライト様を呈する。	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアブライト様を呈する。	-
73	21.50	21.38	上段よりやや割れ目多くなるが(コア形状Ⅳ)。硬さ(C)と硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目ぞいに軟質化するものもある。	21.50	21.38	上段よりやや割れ目多くなるが(コア形状Ⅳ)。硬さ(C)とやや硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目ぞいに軟質化するものもある。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	21.50	21.38	21.50～21.38m: 上段より割れ目がやが多くなるが、やや硬質である。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部は割れ目ぞいに軟質化する。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
74	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2～3mm軟弱粘土脈はさむ。	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2～3mm軟弱黄褐色粘土脈を挟む。	21.50	21.55	21.50～21.55m: 局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。上端の傾斜50°の割れ目には幅2～3mmの軟質な黄褐色粘土脈を挟む。	・下記にある同じ深度の記載をまとめ書きした。
75	21.89	22.10	21.89m・15°～22.10m・50°で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m・15°～22.10m・50°の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m・15°～22.10m・50°の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化する。	-
76	-	-	-	21.50	21.55	21.50～21.55m間は局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
77	-	-	-	22.10	22.39	アブライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明瞭。	22.10	22.39	22.10～22.39m: アブライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明瞭である。	-
78	22.17	22.17	60° 割れ目に幅1～2mmの灰黄色軟弱粘土脈はさむ。	22.17	22.17	60° 割れ目に幅1～2mmの灰黄色軟弱粘土脈を挟む。	22.17	22.17	22.17m: 傾斜60°で幅1～2mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	-
79	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅴランク	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅴランク	-
80	22.10	22.39	(地質名欄)Go	22.10	22.39	(地質名欄)Ap	22.10	22.39	(地質名欄)アブライト	-
81	22.20	22.65	(割れ目状態欄)αランク	22.20	22.65	(割れ目状態欄)βランク	22.20	22.65	(割れ目状態欄)βランク	-
82	22.21	22.21	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量25mm左ズレ)	22.21	22.21	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている。切っけている(変位量25mm左ズレ)。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	22.21	22.89	22.21m・50°及び22.89m・65°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・記事内容が同じであるため、22.89mの記事を含めて記載した。
83	22.32	22.32	40° 幅20mmの長石濃集部が母岩に密着して分布。	22.32	22.32	20° 幅20mmの長石濃集部が母岩に密着して分布。	22.32	22.32	22.32m: 傾斜20°で幅20mmの長石濃集部が母岩に密着して分布する。	-

H24-D1-2 22.90～27.32m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容	
コア観察カードから正しく転記されているか？ ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☒								
84	22.89	22.89	85°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量15mm左ズレ)	22.89	22.89	85°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている。切っかかり(変位量15mm左ズレ)の割れ目には挟む物が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・変位の基準とした割れ目は対になるものではないため変位量を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っている」を削除した。	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
85	22.90	23.00	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Cランク	22.90	23.00	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	・コアはやや軟質で周囲より割れ目が多いため、コアの硬さ、コアの形状の各ランクを変更した。	22.90	23.00	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	-
86	23.18	24.04	割れ目の少なくや硬質。 40°～60°割れ目主体で、割れ目の一部に幅1～2mmの軟弱な白色～灰黄色粘土脈を挟む。	23.18	24.04	割れ目が少なくや硬質。 40°～60°割れ目主体で、割れ目の一部に幅1～2mmの軟弱な白色～灰黄色粘土脈を挟む。	・傾記の修正(の⇒が) ・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	23.18	24.04	23.18～24.04m: やや硬質で、傾斜40°～60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。一部に幅1～2mmの軟弱な白～灰黄色粘土脈を挟む。	-
87	23.68	23.72	23.68m、23.72m、50°で各々、幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布。	-	-	-	-	23.68	23.72	23.68m及び23.72m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
88	23.80	24.04	(コアの形状欄) IIIランク (岩線区分欄) CM	23.80	24.04	(コアの形状欄) IVランク (岩線区分欄) CL	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩線を変更した。	23.80	24.04	(コアの形状欄) IVランク (岩線区分欄) CL	-
89	23.88	23.88	73°、幅4～5mmの長石脈が母岩に密着して分布。	23.88	23.88	73°、幅4～5mmの長石と石英の濃集部が脈状に分布、中流している。	・脈状の岩物について種類を追記した。 ・脈物脈は母岩と中流していることを追記した。	23.88	23.88	23.88m: 傾斜73°で幅4～5mmの長石と石英の濃集部が脈状に中流して分布する。	-
90	24.04	25.22	上位よりもやや軟化し、硬さDで、20°～60°割れ目が主体、軟化する。割れ目の一部は細片化する。	24.04	25.22	上位よりもやや軟質化し、硬さDで、20°～60°割れ目が主体、軟化する。割れ目の一部は細片化する。 割れ目に白色粘土やマンガンを含むことが多い。	・表現の適正化(やや、軟質化) ・白色粘土やマンガンの脈は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.04	25.22	24.04～25.22m: 上位よりもやや軟質化し、割れ目の一部は細片化する。傾斜20°～60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガンを含むことが多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
91	24.04	24.30	(コアの形状欄) IVランク	24.04	24.30	(コアの形状欄) Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	24.04	24.30	(コアの形状欄) Vランク	-
92	-	-	-	24.04	24.04	傾斜35°の割れ目に沿って幅5～10mmが緑色化している。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.04	24.04	24.04m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅5～10mmが緑色化する。	-
93	-	-	-	24.57	24.60	傾斜60°の割れ目に沿ってマンガン汚染が顕著に見られる。	・顕著なマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.57	24.60	24.57～24.60m: 傾斜60°の割れ目沿いにマンガン汚染が顕著に見られる。	-
94	24.80	24.82	60°、幅15mmは粘土化でやや軟化。 下端側は緑色化が見られる。	24.80	24.82	60°、幅15mmは白色粘土化でやや軟質化。 下端側は緑色化が見られる。	・粘土化の色調を追記した。 ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・表現の適正化(やや、軟質化)	24.80	24.82	24.80～24.82m: 傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し、やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。	-
95	24.80	25.22	(コアの形状欄) IVランク	24.80	25.22	(コアの形状欄) Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	24.80	25.22	(コアの形状欄) Vランク	-
96	25.22	26.84	一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く軟化するが、概ね硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には、幅0.5～1mmの白色・軟質粘土脈を挟むが粘土脈の分布は少ない。	25.22	26.84	一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には、幅0.5～1mmの白色・軟質粘土脈を挟むが粘土脈の分布は少ない。	・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・表現の適正化(扱い、軟質化、挟む、軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(一部の割れ目と粘土脈の分布が少ないは同じ意味のため削除した)	25.22	26.84	25.22～26.84m: 一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5～1mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	-
97	26.67	26.67	55°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量12mm左ズレ)。幅1mmの白色・軟弱粘土脈を挟む。	26.67	26.67	55°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っかかり(変位量+2mm左ズレ)。幅1mmの連続性に乏しい白色・軟質粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・55°の割れ目で止まっているものと横断するものがあるため「変位量」を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っている」を削除した。 ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	26.67	26.67	26.67m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性に乏しい軟弱な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
98	26.84	26.94	(岩線区分欄) CM	26.84	26.94	(岩線区分欄) CL	・コアの硬軟、コアの形状のランクの変更に伴い、岩線を変更した。	26.84	26.94	(岩線区分欄) CL	-
99	26.84	27.38	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Cランク	26.84	27.38	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	・周囲より割れ目が多く、やや軟質であるためコアの形状、コアの硬さの各ランクを変更した。	26.84	27.38	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	-
100	26.84	28.73	互いに交差する40°～60°割れ目が主体。上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化するが、硬質(硬さC)。	26.84	28.73	互いに交差する40°～60°割れ目が主体。上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質(硬さC)⇒やや軟質(硬さD)。	・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・表現の適正化(薄く⇒弱く)	26.84	28.73	26.84～28.73m: 互いに交差する傾斜40°～60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質⇒やや軟質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
101	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟弱な淡黄色粘土を伴い、全体が粘土化進む。	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟弱な淡黄色粘土を伴い、全体が粘土化進む。	・表現の適正化(伴う、軟弱⇒軟質)	27.30	27.32	27.30～27.32m: 上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟弱な淡黄色粘土を挟み、全体に粘土化が進む。	-

H24-D1-2 27.38～31.46m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ✓			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ✓					選定した記事内容		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
102	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅰランク	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅰランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをⅡランクに変更した。	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅰランク	-	
103	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅴランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅴランク	-	
104	28.42	28.46	上端65°、下端55°、割れ目に囲まれてφ5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土層を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し微細な雲母片が露出する。	28.42	28.46	上端55°、下端55°、割れ目に囲まれてφ5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土層を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し微細な雲母片が露出する。	・雲母物を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	28.42	28.46	28.42～28.46m:上端65°、下端55°の割れ目に囲まれてφ5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土層を伴い、幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目沿いに白雲母が露出する。	-	
105	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅴランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅴランク	-	
106	28.73	30.20	割れ目が少なく硬質、40～60°割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m・60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。	28.73	30.20	割れ目が少なくやや硬質、40～60°割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m・60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。 緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	28.73	30.20	28.73～30.20m:やや硬質で、傾斜40～60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	-	
107	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅲランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅳランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した。	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅳランク	-	
108	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅰランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅰランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをⅠランクに変更した。	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅰランク	-	
109	-	-	-	29.32	29.33	径2～5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。傾斜30°、幅10～12mm。	・カリ長石、石英の脈状部は周囲と異なる状況であるため追記した。	29.32	29.33	29.32～29.33m:傾斜30°、幅10～12mmで径2～5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。	-	
110	29.50	29.50	付添の55°と60°、割れ目沿いはマンガン鉱染でφ2mm～3mm程度の斑点状に黒色化する。	29.45	29.45	付添の55°と60°、割れ目沿いはマンガン鉱染でφ2mm～3mm程度の斑点状に黒色化する。	・コアに合わせて深度を変更した。 ・表現の適正化(泡い)	29.45	29.45	29.45m:傾斜55°と60°の割れ目沿いはマンガン鉱染で径2～3mm程度の斑点状に黒色化する。	-	
111	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30～60°割れ目からなる。粘土化部は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30～60°割れ目が分布する。粘土化部は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	30.20	31.44	30.20～31.44m:上位と同じ硬さで、割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30～60°の割れ目が分布する。粘土化部は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない	
112	30.20	33.00	(風化欄)Ⅰランク	30.20	33.00	(風化欄)Ⅱランク	・上位と同様の風化の程度のため風化のランクをⅡランクに変更した。	30.20	33.00	(風化欄)Ⅱランク	-	
113	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質な黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土をはさんでいる。	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質な黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟んでいる。 30.68mの割れ目沿いに緑色化している。	・表現の適正化(含む、軟弱⇒軟質) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	30.68	30.75	30.68～30.75m:上端・下端60°で幅2mmの軟質な黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。	-	
114	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅲランク	・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した。	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅲランク	-	
115	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅲランク	・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した。	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅲランク	-	
116	30.76	31.40	(岩線区分欄)CL	30.76	31.40	(岩線区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩線を変更した。	30.76	31.40	(岩線区分欄)CM	-	
117	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅴランク	・上位より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅴランク	-	
118	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	31.41	31.44	軟質化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	・表現の適正化(軟質化)	31.41	31.44	31.41～31.44m:軟質化し、マンガン鉱染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	-	
119	31.44	31.46	破砕帯Hc-1(主せん断面・31.46m)上端・下端35°で、間帯とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄緑(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 8/2)を呈する。厚さ10～12mm。	31.44	31.46	破砕帯 Hc-1 (最新活動面・31.46m)上端・下端35°で、間帯とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄緑(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 8/2)を呈する。厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	31.44	31.46	●31.44～31.46m:破砕部粘土状部(Hc-1)傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒を含む。軟質。灰白～にぶい黄緑～灰赤色を呈する。幅10～12mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	

H24-D1-2 31.46～32.11m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒							
120	31.46	33.00	31.46	33.00	割れ目が多くなり、低密着割れ目が概ね10～30mm程度で分布するため、コア形状をVと評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、割れ目や低密着割れ目には幅0.5～2mmの散在な白色～灰赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴うものがある。	割れ目の修正(少ない⇒多くなる。「色」の記載消滅)。粘土を伴うするのは低密着割れ目であるため「割れ目」を削除した。表現の適正化(散開⇒散在)。文章の適正化(コア形状Vは記事欄以外から読み取れるため削除した)。	31.46	33.00	31.46～33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30～60°の低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5～2mmの散在な白～灰赤色粘土層を伴う。	
121	31.70	31.80	-	-	幅10mm程度・30°のマンガン鉱染による黒褐色錆状部が分布する。	-	-	31.70	31.80	31.70～31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン鉱染による黒褐色錆状部が分布する。
122	-	-	32.05	32.11	32.05～32.11m間はマンガン汚染が顕著に見られる。	マンガン汚染は断面と異なる状況であるため追記した。	32.05	32.11	32.05～32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	

余白

H24—D1—4

H24-D1-4 0.00～9.20m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
コア観察カードから正しく転記されているか？ ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☒								
1	0	2.94	埋戻し土	0.00	7.62	盛土 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	・表視の統一(盛土: 0.00) ・人工堆積物を盛土として一括して下端深度を変更した	0.00	7.62	0.00～7.62m: 盛土	-
2	0	0.32	礫 φ5～30mmの黒色砂岩からなる。	0.00	0.32	礫 φ5～30mmの黒色砂岩からなる。	・砂石の岩種名に変更した ・表視の統一(0.00)	0.00	0.32	0.00～0.32m: 礫 径5～30mmの黒色砂岩からなる。	-
3	0.00	0.32	(地質名欄)礫(埋戻し土)	0.00	0.32	(地質名欄)礫(盛土)	・表視の統一(盛土)	0.00	0.32	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
4	0.32	2.94	礫混じり粗砂 φ3～40mmのGp.Ap垂角～垂円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3～10mmの砕石を多く含む。	0.32	2.94	礫混じり粗砂 φ3～40mmのGp.Ap垂角～垂円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3～10mmの砕石を多く含む。	・表視の適正化(混じり) ・砕石の岩種名に変更した	0.32	2.94	0.32～2.94m: 礫混じり粗砂 径3～40mmの花崗斑岩、アブライトの垂角～垂円礫を含むルーズな粗砂 からなり、径3～10mmの砕石を多く含む。	-
5	0.32	2.94	(地質名欄)礫混じり粗砂(埋戻し土)	0.32	2.94	(地質名欄)礫混じり粗砂(盛土)	・表視の適正化(混じり) ・表視の統一(盛土)	0.32	2.94	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
6	2.94	5.60	(地質名欄)砂礫(改良土)	2.94	5.60	(地質名欄)砂礫(盛土)	・表視の統一(盛土)	2.94	5.60	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
7	2.94	5.60	砂礫 φ5～130mmのGp.Ap垂角～垂円礫で礫質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ～粗砂でやや締っている。礫含有率は40～50%で あるが、5.15m以深では10mm前後の小型の礫が 主体。	2.94	5.60	砂礫 φ5～130mmのGp.Ap垂角～垂円礫で礫質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ～粗砂でやや締っている。礫含有率は40～50%で あるが、5.15m以深では10mm前後の小型の礫が 主体。	・表視の適正化(やや)	2.94	5.60	2.94～5.60m: 砂礫 径5～130mmの花崗斑岩、アブライトの垂角～垂円礫で、礫質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中～粗砂でやや締まる。礫率は40 ～50%であるが、5.15m以深では径10mm前後の礫が主体である。	-
8	4.96	5.12	φ10～60mmのコンクリート片を含む。	-	-	-	-	4.96	5.12	4.96～5.12m: 径10～60mmのコンクリート片を含む。	-
9	5.60	7.40	礫混じり粗砂 上位深度よりも礫量が減少したもの。上位よりルーズ となる。礫はφ5～10mmと小型で半クサリ礫のGp 主体で、一部クサリ礫とする。	5.60	7.62	礫混じり粗砂 上位深度よりも礫量が減少する。上位よりルーズと なる。礫はφ5～10mmの小型で半クサリ礫のGp主 体で、一部クサリ礫となる。	・表視の適正化(混じり)する。クサリ化する⇒クサリ礫となる) ・コアに合わせて深度を変更した ・文章の適正化(礫径の数値の記載があるため「小型」を削除した)	5.60	7.62	5.60～7.62m: 礫混じり粗砂 上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5～10mmの 花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。	-
10	5.60	7.62	(地質名欄)礫混じり粗砂(改良土)	5.60	7.62	(地質名欄)礫混じり粗砂(盛土)	・表視の適正化(混じり) ・表視の統一(盛土)	5.60	7.62	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
11	6.00	6.45	φ10mm前後主体に礫量が多い。礫含有率は50% 程度で上下に比べて締っている。礫はφ10mm以下の 小型で硬いものが多い。	6.00	6.45	φ10mm前後主体になり、礫量が多い。礫含有率は 50%程度で上下に比べて締っている。礫はφ10mm以下の 小型で硬いものが多い。	・表記の修正(主体に礫量⇒主体になり、礫量) ・文章の適正化(径10mm前後と記載しているため、径10mm以下の 記載を削除した。礫径の数値の記載があるため「小型」を削除した)	6.00	6.45	6.00～6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、礫量が多い。礫率 は50%程度で上下に比べて締っている。	-
12	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟質な粘土が不規則なアメーバ 状に分布する。浅部ないし深部側への連続性はない。	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟質な粘土が不規則なアメーバ 状に分布する。浅部ないし深部側への連続性はない。	・表視の適正化(アメーバ状⇒形、軟質⇒軟質)	6.36	6.42	6.36～6.42m: 明赤灰色の軟質な粘土が不規則な形で分布する。浅部ない し深部側への連続性はない。	-
13	7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。	-	-	-	-	7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。	-
14	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗斑岩の粗砂の 基盤岩	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗斑岩の粗砂の 基盤岩	・7.62m以深が基盤岩であるため削除した	7.40	-	7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗斑岩の粗砂からなる。	-
15	7.62	7.62	7.62mで着岩	-	-	-	-	-	-	-	・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
16	-	-	φ2～8mm石英と長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)	7.62	17.89	花崗斑岩 φ2～10mm石英と長石の斑晶を5～15%程度含む。	・地質名及び区間深度を適正化した ・石英の斑晶の径及び斑晶の含有率をコアに合わせて追記・修正した	7.62	17.89	7.62～17.89m: 花崗斑岩 径2～10mmの石英、長石の斑晶を5～15%程度含む。	-
17	7.62	9.26	岩質組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や 粘土礫は殆んど分布しない。割れ目は30～60°が 主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80° 割れ目も分布する。風化により、割れ目沿いに数 mm程度砂状化～小細片化することもある。	7.62	9.26	岩質組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や 粘土礫は殆んど分布しない。割れ目は30～60°が 主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80° 割れ目も分布する。風化により、割れ目沿いに数 mm程度砂状化～小細片化することもある。	・表視の適正化(岩質組織、沿い)	7.62	9.26	7.62～9.26m: 岩質組織と割れ目は残留し、変質粘土化部や粘土礫は殆 んど分布しない。傾斜30～60°の割れ目が主体で、一部で傾斜60～80° の割れ目も分布する。風化により割れ目沿いに数mm程度砂状～小細片 化する。	-
18	8.78	8.91	60°割れ目、8.91m～65°割れ目に軟質な白色粘土が幅 0.5mmで断続的に付着している。	8.78	8.91	60°割れ目、8.91m～65°割れ目に軟質な白色粘土が幅 0.5mmで断続的に付着している。	・表記の修正(軟質⇒軟質、断面⇒断続)	8.78	8.91	8.78m～60°、8.91m～65°の割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土が断続 的に付着する。	-
19	-	-	褐色化が顕著に見られる。	9.05	9.20	褐色化が顕著に見られる。	・褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した	9.05	9.20	9.05～9.20m: 褐色化が顕著に見られる。	-
20	9.17	9.20	50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化 する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状～粘土状などの劣化 はない。	9.17	9.20	50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化 する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状～粘土状などの劣化 はない。	・表視の適正化(沿い)	9.17	9.20	9.17～9.20m: 傾斜50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化 するが、砂状～粘土状などの劣化はない。	-

H24-D1-8 9.21~11.65m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
											コア観察カードから正しく転記されているか?	
21	-	-	☒	9.21	9.43	緑色変質が顕著である。	緑色変質は周囲と異なる状況であるため追記した	9.21	9.43	9.21~9.43m: 緑色変質が顕著である。	-	
22	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化している。このうち、区間の上端側9.26~9.32mと下端側9.36~9.38mでは、φ5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な、上端側にはふいふ褐色、下端側は灰白色の粘土脈が分布し、粘土混じり岩片状を呈する。区間中央部の9.32~9.34mでは、更に粘土化が進み、φ3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、傾30mmの硬質粘土である。	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化している。このうち、区間の上端側9.26~9.32mと下端側9.36~9.38mでは、φ5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な、上端側にはふいふ褐色、下端側は灰白色の粘土脈が分布し、粘土混じり岩片状を呈する。区間中央部の9.32~9.34mでは、更に粘土化が進み、φ3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、傾30mmの硬質粘土である。	表現の適正化(軟質化、軟質⇒軟質、混じり) 文章の適正化(区間深部の記載があるため上端側、下端側、区間中央部を削除した)	9.26	9.38	9.26~9.38m: 全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26~9.32mと9.36~9.38mでは、粘土混じり岩片状を呈し、径5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質なふいふ褐色(上端側)~灰白色(下端側)の粘土脈が分布する。9.32~9.34mでは、傾斜45°で幅30mm程度が更に粘土化した硬質粘土で、径3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。	-	
23	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質なふいふ赤褐色を呈する粘土脈である。	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質な軟質(ふいふ赤褐色を呈する粘土脈)である。	表現の統一(軟質⇒軟質)	9.34	9.36	9.34~9.36m: 上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質(ふいふ赤褐色を呈する粘土脈)を挟む。	-	
24	-	-		9.43	9.50	褐色化が顕著に見られる。	褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した	9.43	9.50	9.43~9.50m: 褐色化が顕著に見られる。	-	
25	9.38	10.76	硬さD)主体で、一部で風化で著しく軟化した硬さE)も含む。一部で消滅しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目で止まっていることが多い。10.00m以下では、前者の割れ目(30~70°)に幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)~淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として含まれることが多い。	9.38	10.76	全体にやや軟質で、一部は風化で著しく軟質化している。一部で消滅しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目で止まっていることが多い。10.00m以下では、前者の割れ目(30~70°)に幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)~淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として含まれることが多い。一部にはマンガンを含む。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	30~70°の割れ目が20~40°の割れ目で止まっている部分もあり、前者が一方向的に後者を切っているわけではないため「切られる」を「止まっている」に変更した。 表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む、混じり) マンガンの存在は周囲と異なる状況であるため追記した 割れ目周辺の状況について追記した 文章の重複を(軟質)主体⇒全体にやや軟質、硬さは著しく軟化した同義であるため削除した	9.38	10.76	9.38~10.76m: 全体にやや軟質で、一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかかっているが、大半の割れ目は残留し、傾斜30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目で止まっていることが多い。10.00m以下では、前者の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白~淡黄色粘土を挟み、一部にはマンガンを含む。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
26	10.00	11.22	(変質層)3ランク	10.00	11.22	(変質層)2ランク	下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した	10.00	11.22	(変質層)2ランク	-	
27	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20~35°の割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質~一部硬質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈を挟む粘土混じり岩片状で、色調はふいふ褐色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20~35°の割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質~一部硬質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈を挟む粘土混じり岩片状で、色調はふいふ褐色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む、混じり) 表現の統一(固結⇒硬質)	10.76	10.88	10.76~10.88m: 上端35°で直線的にシャープに、下端30°で波打って連続。傾斜20~25°の割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質~一部硬質な灰黄色粘土脈を挟み粘土混じり岩片状を呈する。ふいふ褐色を呈する。幅110mm。	-	
28	10.76	10.91	(割れ目状感層)2ランク	10.76	10.91	(割れ目状感層)2ランク	割れ目が認識できたため割れ目状感のランクを2ランクに変更した	10.76	10.91	(割れ目状感層)2ランク	-	
29	10.76	11.22	(岩紋区分層)D	10.76	11.22	(岩紋区分層)D/L	区間長が50cm未満のため、周囲の岩紋に含めた	10.76	11.22	(岩紋区分層)D/Lに含める	-	
30	10.88	10.91	上端30°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟質化~粘土化岩片を含む硬質粘土であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部の幅5mmは硬化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、ふいふ褐色(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	10.88	10.91	上端30°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟質化~粘土化岩片を含む粘土質硬状部である。硬質粘土であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部下端側の幅5mmは硬化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、ふいふ褐色(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	破砕部と認定しておらず、Hbと比較する必要がないため「硬質粘土」であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。との記載を削除した 表現の適正化(軟質⇒軟質、硬質化、最下位部⇒下端側) 粘土量が少ないため粘土質硬状部に変更した。	10.88	10.91	10.88~10.91m: 上端30°、下端35°でともに連続的でシャープに連続する。径5~10mmの風化して軟質化~粘土化した岩片を含む粘土質硬状部である。下端側の幅5mmは硬化で硬質化し、マンガン鉱染により一部は黒褐色化する。全体でふいふ褐色~黒褐色を呈する。幅20~30mm。	-	
31	10.91	10.93	破砕帯 Hc-2(D-1破砕帯)(主せん断面・10.93m) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄色(10YR 8/4)の粘土で、最下位には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm。	10.91	10.93	破砕部 Hc-2(D-1破砕帯)(最新活動面・10.93m) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄色(10YR 8/4)の硬泥じり粘土で、最下位には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	用語の統一(破砕帯⇒破砕部) 最新活動面という用語に統一 破砕帯名は詳述であるため削除した 硬質を含むため破砕部内物質の名称を硬泥じり粘土に変更した 表現の適正化(軟質⇒軟質) やや硬まった灰白色粘土は、上位の硬泥じり粘土と同等の硬さであるため軟質に変更した 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	10.91	10.93	●10.91~10.93m: 破砕部 硬泥じり粘土状部(Hc-2) 上端35°、下端38°でともに直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を若干含む、軟質。下端には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が連続する。全体は淡黄色を呈する。幅15~18mm。	-	
32	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟質化している。	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟質化している。	表現の適正化(軟質化)	10.93	11.22	10.93~11.22m: 粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体に軟質化	-	
33	11.22	11.65	50~70°の割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど含まれないが、割れ目沿いに砂状化する。	11.22	11.65	50~70°の割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。	表現の適正化(挟む、沿い)	11.22	11.65	11.22~11.65m: 傾斜50~70°の割れ目が主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。	-	

H24-D1-4 11.65～18.44m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☒						
34	11.65	17.89	11.65	17.89	上位より割れ目が少なくなる。コア形状IVである。硬さDの岩片が主体であるが、割れ目沿いの一部に風化で軟化した硬さが分布している。	・コア形状Vも分布するため「主体」を追加した。 ・表観の適正化(沿い、軟質化)	11.65	17.89	11.65～17.89m: 上位より割れ目が少なくなる。全体にやや軟質であるが、割れ目沿いの一部は風化でより軟質化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない	
35	11.90	12.16	11.90	12.16	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)Vランク	・断面に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	11.90	12.16	(コアの形状欄)Vランク	-
36	12.00	13.00	12.00	13.00	(最大コア長欄)9	(最大コア長欄)7	・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した	12.00	13.00	(最大コア長欄)7	-
37	15.27	-	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土部は分布せず。割れ目には含まれる粘土土の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	・表観の適正化(挟む、沿い、受ける)	15.27	-	15.27m以深は、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められない。粘土土部に挟む粘土土の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	-	
38	12.60	12.60	12.60	12.60	45° 幅1～2mmの石英脈。境界沿いに割れ目化し、割れ目も含む周辺10～20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・表観の適正化(沿い) ・文章の適正化 ・表記の修正(「幅」の記載漏れ)	12.60	12.60	12.60m: 傾斜45°で幅1～2mmの石英脈を挟み、境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10～20mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	
39	13.00	13.38	-	-	風化で砂状化が進む部分が多い。	-	13.00	13.38	13.00～13.38m: 風化で砂状化が進む部分が多い。	-	
40	13.00	14.00	13.00	14.00	(最大コア長欄)4	(最大コア長欄)6	・最大コア長が6cmのところは認められるため修正した	13.00	14.00	(最大コア長欄)6	-
41	13.45	16.80	-	-	φ5～10mmの粘土土し白濁化した長石斑晶を多く含む。	-	13.45	16.80	13.45～16.80m: 径5～10mmの粘土土し白濁化した長石斑晶を多く含む。	-	
42	14.00	15.00	14.00	15.00	(最大コア長欄)9	(最大コア長欄)7	・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した	14.00	15.00	(最大コア長欄)7	-
43	15.00	15.21	15.00	15.21	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)Vランク	・下位に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	15.00	15.21	(コアの形状欄)Vランク	-
44	15.27	17.89	15.27	17.89	(風化欄)αランク	(風化欄)δランク	・風化の程度がやや強いので風化のランクをδランクに変更した	15.27	17.89	(風化欄)δランク	-
45	15.50	15.50	15.50	15.50	55° 割れ目に幅1～10mmと膨縮する軟質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土土部がはさまれる。	・表観の適正化(軟質⇒軟質、挟む)	15.50	15.50	15.50m: 傾斜55°で幅1～10mmと膨縮する軟質な灰黄色粘土土部を挟む。	-	
46	16.00	17.10	16.00	17.10	複数の75～85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土土をはさむ。	・表観の適正化(軟質⇒軟質、挟む)	16.00	17.10	16.00～17.10m: 複数の傾斜75～85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土土を挟む。	-	
47	16.84	17.10	16.84	17.10	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)Vランク	・断面に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	16.84	17.10	(コアの形状欄)Vランク	-
48	17.03	17.03	-	-	45° 幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	17.03	17.82	17.03m: 傾斜45°、17.82m: 40°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	・記事内容が同じであるため、17.82mの記事を含めて記載した	
49	17.32	17.32	17.32	17.32	60° 幅2mm軟質～半固結状の明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土土部が分布。微細な雲母を伴う。	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・顕著な褐色化は断面と異なる状況であるため追記した ・表観の適正化(軟質⇒軟質) ・表観の統一(半固結状⇒やや硬質な)	17.32	17.32	17.32m: 傾斜60°で幅2mmの軟質～やや硬質な明灰オリーブ色の粘土土部を挟む。微細な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	-	
50	17.82	17.82	-	-	40° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない	
51	17.89	18.44	17.89	18.44	花崗岩(Gr) 上端50°で幅1～4mm石英脈とφ2～5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3～5mmの石英、長石、φ1～3mmの黒雲母の各斑晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石斑晶はφ10mm程度と大型化するものも含み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はGcに遷移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や岩組織は残存するが、風化で著しく軟化している。	・地質名欄に合わせて地質名を変更した ・緑泥石であるため「?」を削除した ・表観の適正化(遷移⇒漸移、ただし、原岩組織、軟質化)	17.89	18.44	17.89～18.44m: 黒雲母花崗岩 上端50°で幅3～4mmの石英脈と径2～5mmの緑泥石を伴って、平均径3～10mmの石英、長石、径1～3mmの黒雲母の斑晶からなり、等粒状組織をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗斑岩に漸移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。割れ目や原岩組織は残存するが、風化で著しく軟化する。	-	
52	17.89	18.44	17.89	18.44	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)αランク (岩級区分欄)C	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)δランク (岩級区分欄)CL	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、岩級区分のランクを変更した	17.89	18.44	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)δランク (岩級区分欄)CL	-

H24-D1-4 18.44～24.00m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
53	-	-	-	18.44	70.00	花崗斑岩 19.11～19.33m, 28.43～30.40m付近, 55.84～57.00m付近など斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	-	花崗斑岩の分布について区間深度を追記した アプライト様の部分を挟むことを追記した	18.44	70.00	18.44～70.00m: 花崗斑岩 19.11～19.33m, 28.43～30.40m付近, 55.84～57.00m付近など斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	-	
54	18.44	21.00	30～50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60～70° 割れ目が斜交～直交する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟弱な粘土脈をはさむが、傾度は低い。	18.44	21.00	30～50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60～70° 割れ目が斜交～直交する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟むが、傾度は低い。	-	粘土の色調を追記した 表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む) 文章の適正化(一部と記載しているため傾度は低いを削除した)	18.44	21.00	18.44～21.00m: 傾斜30～50° の割れ目が主体で、一部で60～70° の割れ目が交差する。一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	-	
55	18.90	19.10	(コアの形状欄) Vランク	18.90	19.10	(コアの形状欄) Vランク	-	断面に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	18.90	19.10	(コアの形状欄) Vランク	-	
56	19.08	19.08	60° 割れ目は幅2～3mmの固結粘土脈を挟み、上盤側約50mmがマンガン鉱染を受ける。	19.08	19.08	60° 割れ目は幅2～3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上盤側約50mmがマンガン鉱染を受ける。	-	粘土脈の色調を追記した 表現の適正化(挟む、受ける) 表現の統一(固結⇒硬質) 上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した 傾記の修正(「幅」の記載漏れ)	19.08	19.08	19.08m: 傾斜50° で幅2～3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上盤側約50mmはマンガン鉱染を受ける。	-	
57	18.90	19.75	幅1～5mm, 30～50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	18.90	19.75	幅1～5mm, 30～50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	-	表現の適正化(伴う)	18.90	19.75	18.90～19.75m: 傾斜30～50° で幅1～5mmの石英脈が母岩に密着して複数分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。	-	
58	20.60	20.60	70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60	20.60	70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	表現の適正化(沿い、伴う)	20.60	20.60	20.60m: 傾斜70° の割れ目ぞいに風化して褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	
59	20.90	21.66	(風化欄) Aランク	20.90	21.66	(風化欄) Bランク	-	風化の程度がやや強いので風化のランクをBランクに変更した	20.90	21.66	(風化欄) Bランク	-	
60	21.00	21.66	割れ目は少ないが、一部で60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	-	-	-	-	-	21.00	21.66	21.00～21.66m: 割れ目は少ないが、一部で傾斜60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	-	
61	21.19	21.44	21.19m・35°、21.44m・50° のいずれも幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-	-	-	-	-	21.19	21.44	21.19m・35°、21.44m・50° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-	
62	21.44	21.66	(コアの形状欄) IIIランク	21.44	21.66	(コアの形状欄) IVランク	-	上位に比べて割れ目がやや多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	21.44	21.66	(コアの形状欄) IVランク	-	
63	21.50	21.50	60° はせん断性割れ目で、上記の21.44m・50° 石英脈を切っている(変位量不明)	21.50	21.50	60° のせん断性割れ目は、上記の21.44m・50° 石英脈で横断される。を切っている(変位量不明)割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	石英脈はせん断性割れ目を横断しており、せん断割れ目が横断する長石もズレていないため「切っている」及び変位量の記載を削除した 割れ目及び周辺の状況について追記した 上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	21.50	21.50	21.50m: 傾斜60° の割れ目は、21.44m・50° の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
64	21.66	26.78	30～50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1～3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈をはさむことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66	26.78	30～50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1～3mmの軟質な白色粘土脈を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。	-	表現の適正化(沿い、軟弱⇒軟質、挟む)	21.66	26.78	21.66～26.78m: 傾斜30～50° の割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1～3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。	-	
65	22.36	22.40	φ15mmと大型の長石斑晶2ヶが晶出。	22.36	22.40	φ15mmの大型の長石斑晶が2個見られる晶出。	-	表現の適正化(2ヶ⇒2個、晶出しているわけではないため、見られるに変更した) 文章の適正化	22.36	22.40	22.36～22.40m: 径15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。	-	
66	22.72	22.78	22.72m・45° ～22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。	22.72	22.78	22.72m・45° ～22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目によって褐色化が見られる。	-	割れ目に沿った褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した 表現の適正化(伴う)	22.72	22.78	22.72m・45° ～22.78m・50° の間は、風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目によって褐色化が見られる。	-	
67	23.27	23.27	50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土脈はさむ。	23.27	23.27	50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟質粘土脈挟む。	-	表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	23.27	23.27	23.27m: 傾斜50° で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。	-	
68	23.40	23.77	60～70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を切り、褐色風化で幅1～2mm砂状化する。	23.40	23.77	60～70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断し切り、褐色風化で幅1～2mm砂状化する。	-	割れ目は斑晶を横断しておりズレていないため「切り」を「横断し」に変更した	23.40	23.77	23.40～23.77m: 傾斜60～70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目ぞいに幅1～2mmで砂状化し、風化で褐色化する。	-	
69	-	-	-	23.76	24.00	傾斜70～90° 湾曲した高角度割れ目が分布する。幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。	-	湾曲した高角度割れ目は周囲と異なるため追記した	23.76	24.00	23.76～24.00m: 傾斜70～90° の湾曲した高角度割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。	-	

H24-D1-4 24.00～27.22m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒				追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒							
70	-	-		24.15	24.40	径10～20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。		・大型の鉱物の斑晶は周囲と異なる状況であるため追記した	24.15	24.40	24.15～24.40m: 径10～20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。		-
71	24.59	24.59		24.59	24.59	40° 割れ目径10mm淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5mm前後の雲母を伴う。		・コアに合わせて色調を変更した ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い)	24.59	24.61	24.59m、25.09m、25.61m: 傾斜40～45° の割れ目扱いに幅10～20mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5～1mmの白雲母を伴う。		・記事内容がほぼ同じであるため、25.09m、25.61mの記事を含めて記載した
72	25.10	25.10		25.09	25.09	45° 割れ目径10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5～1mmの雲母を伴う。		・コアに合わせて深度を変更した ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い) ・傾記の修正(「傾」の記載漏れ)	-	-	-		・上記でまとめ書きしたため記載しない
73	25.40	25.40		-	-	50° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布			25.40	25.40	25.40m: 傾斜50° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。		-
74	-	-		25.41	25.41	傾斜55°、幅1～3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 割れ目扱いにはわずかに緑色化。		・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	25.41	25.41	25.41m: 傾斜55° で幅1～3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目扱いにはわずかに緑色化する。		-
75	25.61	25.61		25.61	25.61	40° 割れ目径10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5～1mmの雲母を若干伴う。		・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い) ・傾記の修正(「傾」の記載漏れ) ・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	25.61	25.61	25.61m: 傾斜40° で幅1～2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。		・淡緑灰色化については、上記でまとめ書きしたため記載しない
76	25.96	26.22		-	-	25.96m・50° ～26.22m・45° の各割れ目に囲まれて、全体が風化で細片状～砂状化主体となる。			25.96	26.22	25.96m・50° ～26.22m・45° の間は、全体が風化で細片状～砂状化が主体となる。		-
77	26.78	27.75		26.78	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1～3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃でφ1～3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目扱いに砂状化し、27.00～27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部スライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。		・表現の適正化(扱い) ・文章の適正化(割れ目は少なくないため削除した) ・スライムの区間を追記した	26.78	27.75	26.78～27.75m: 低密着割れ目が1～3cm間隔で分布し、ハンマーの打撃で径1～3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目扱いに砂状化し、27.00～27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。 27.16～27.22m: スライム		-
78	27.16	27.22		27.16	27.22	(地質名欄)Go (割れ目状態欄)ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク (変質欄)Iランク (岩級区分欄)D		・コア欠如区間であるため地質名欄に追記した ・コア欠如区間であるため、各欄を空欄にした	27.16	27.22	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄		-

H24-D1-4 27.75～29.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☒						
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部	・用語の統一(破砕帯→破砕部)			●27.75～28.43m:破砕部 27.75～27.91m:粘土質礫状部(Hb) 上端20"で砂状化し不明瞭。下端15"で直線的にシャープに連続。 径2～3mmの石英粒。径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色。下端側は明褐色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91～28.33m:粘土混じり岩片状部(H)	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
80	27.75	27.91	Hb 上端20"。下端15"で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。径2～3mmの石英粒。径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや締った硬質粘土。下端側は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色。下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20"。下端15"で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。径2～3mmの石英粒。径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。粘土質礫状部からなるやや締った硬質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色。下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・27.91～28.33mのHと同等の硬さであるため硬軟を変更した ・細粒の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(ほぼ) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			●27.91～28.33m:粘土混じり岩片状部(H) 上端15"。下端53"でともに直線的でシャープに連続。幅1～5mmの灰黄～にぶい黄褐色～灰白色の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20"で、27.96m以深では網状に分布する。全体に明褐色～にぶい黄褐色を呈する。 28.33m:粘土状部(Hc-1) 傾斜53"で直線的にシャープに幅2～5mmの灰黄褐色の軟質粘土からなる。 28.33～28.43m:粘土質礫状部(Hb) 上端53"。下端60"でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～10mmの大半が粘土化した花崗閃岩の岩片からなる。軟質。灰白～明赤灰～明黄褐色を呈する。幅60mm。	
81	27.91	28.33	H 上端15"。下端53"で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶい黄褐色(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟質粘土が27.95～28.00mでは10～20"で、28.00m以深では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)～にぶい黄褐色(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.91	28.33	H 上端15"。下端53"で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶい黄褐色(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20"で、27.96m以深では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は明褐色(7.5YR 7/2)～にぶい黄褐色(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	・細粒の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、混じり) ・粘土の記載にある深さをコアに合わせて変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さ40mmは区間長から考えて誤記であるため削除した	27.75	28.43		
82	28.33	28.33	Hc-1(主断面) 53"。幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色(10YR 5/2)の軟質粘土脈。	28.33	28.33	Hc-1(最新活動面) 53"。幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色(10YR 5/2)の軟質粘土脈。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
83	28.33	28.43	Hb 上端53"。下端60"で、両者とも直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と、径3～10mmの大半が粘土化したGp岩片からなる軟質粘土質礫状部。灰白(5YR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。	28.33	28.43	Hb 上端53"。下端60"で、両者とも直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と、径3～10mmの大半が粘土化したGp岩片からなる軟質粘土質礫状部。灰白(5YR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒の修正(「色」の記載漏れ) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
84	27.75	27.91	(破砕度区分)記載なし	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb	-
85	27.91	27.95	(破砕度区分)記載なし	27.91	27.95	(破砕度区分)H	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	27.91	27.95	(破砕度区分)H	-
86	28.43	28.73	岩片は硬さ(C)主体である。30～60"を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土脈をはさむ割れ目は少ない。28.70m以深では、割れ目ぞいにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	28.43	28.73	岩片は硬さ(C)主体である。30～60"を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。28.70m以深では、割れ目ぞいにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	・表現の適正化(沿い、挟む)	28.43	28.73	28.43～28.73m:傾斜30～60"主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。 ・マンガン鉱染については下記に具体的に記載した	
87	27.57	27.57	65"割れ目は幅2mmの粘土脈をはさむが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65"割れ目は幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	・細粒の修正(27.57⇒28.57) 表現の適正化(挟む)	28.57	28.57	28.57m:傾斜65"で幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	-
88	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Bランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク	-

H24-D1-4 29.48～33.53m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (コア観察カードから正しく転記されているか?) ☒	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
				適正化された記事が正しく転記されているか? ☒				
89	29.48	29.73	(コアの形状欄) Vランク	(コアの形状欄) IVランク	・上位に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク
90	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化 未変質である。	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	・表現の適正化(ほぼ)	29.73	30.20	29.73～30.20m: 硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。
91	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状である。割れ目、低密着割れ目は30～50° 主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状である。割れ目、低密着割れ目は30～50° 主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	・表現の適正化(近い)	30.20	31.03	30.20～31.03m: 低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30～50° が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。
92	31.03	32.30	60～70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する40～50° の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ともに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど含まない。	60～70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する40～50° の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ともに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど含まない。 31.25～31.40m間はやや湾曲した傾斜80～90° で、31.60～31.81mでは傾斜50° で、幅5～20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	・表現の適正化(近い、挟む) ・カリ長石の濃集部の脈は周囲と異なる状況であるため追記した	31.03	32.30	31.03～32.30m: 傾斜60～70° の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する40～50° の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど含まない。 31.25～31.40m間はやや湾曲した傾斜80～90° で、31.60～31.81mでは傾斜50° で、幅5～20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。
93	31.37	31.51	1～1.5cm間隔で60～70° 割れ目～低密着割れ目が平行に分布する。	-		31.37	31.51	31.37～31.51m: 1～1.5cm間隔で傾斜60～70° の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。
94	31.75	32.30	85～90° 割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に数箇所灰白色粘土層1～2mmが付着する。	85～90° 割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に数箇所灰白色粘土層1～2mmが付着する。	・表現の適正化(やや、軟弱⇒軟質)	31.75	32.30	31.75～32.30m: 傾斜85～90° の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟質の灰白色粘土が付着する。
95	32.13	32.13	60°、幅5～8mmで径1～3mmに角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	60°、幅5～8mmで径1～3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	・角礫化した破砕割れ目が分布する。その岩片は移動や回転をしていないため角礫化は破砕によるものではないと判断して「破砕割れ目」を削除した ・礫を含むマンガン脈であるためその旨の記載に変更した	32.13	32.13	32.13m: 傾斜60°、幅5～8mmで径1～3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化した破砕割れ目が分布する。岩片は移動や回転をしていない。
96	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30～50° 割れ目と、これらに斜交～直交する60～80° の割れ目が主体。32.86m～80° 割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00～33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30～50° 割れ目と、これらに斜交～直交する60～80° の割れ目が主体。32.86m～80° 割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68m、傾斜60°、32.76m、傾斜30° に幅5～15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00～33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(近い) ・カリ長石の濃集した脈は周囲と異なる状況であるため追記した	32.30	33.10	32.30～33.10m: 一部で硬さBの硬質岩片を含む。傾斜30～50° の割れ目と、これらに斜交～直交する60～80° の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80° の割れ目の上端側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜60° で、32.76mに傾斜30° で幅5～15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00～33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。
97	33.00	33.10	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) Aランク	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) Bランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化のランクを変更した	33.00	33.10	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) Bランク
98	33.10	33.65	硬さBと硬質岩片からなり、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土は含まない。	硬さBと硬質岩片で、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化や粘土は含まない。	・岩片ではないため削除した ・傾斜の修正(ほぼ⇒やや) ・表現の適正化(挟む)	33.10	33.65	33.10～33.65m: 割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。
99	33.24	33.24	75°・幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-		33.24	33.24	33.24m: 傾斜75° で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。
100	-	-	-	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。	・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した	33.29	33.98	33.29～33.98m: 傾斜45～60° で幅2～5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。
101	-	-	-	傾斜45°、幅2～4mm程度のカリ長石の脈を挟む。	・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない

H24-D1-4 33.65～37.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		コア観察カードから正しく転記されているか ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか ☒						
102	33.65	37.15	33.65	37.15	一部、33.78～34.35mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外にはコア形状IVである。硬さは34.64m以浅は粘土主体、以深はBと硬質である。割れ目は30°～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する50°～60°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70°～90°割れ目が35.42m付近、36.5m付近などに分布する。各割れ目は34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。	一部、33.78～34.35mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外にはコア形状IVである。硬さは34.64m以浅は粘土主体、以深はBと硬質である。割れ目は30°～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する50°～60°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70°～90°割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。各割れ目は34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。 33.75m、傾斜35°、幅20mm程度で柱化した脈を挟む。 33.96m、傾斜60°、幅5mm程度のカリ長石の脈を挟む。	・割れ目が多いコア形状Vの区間に変更した ・表現の適正化(治い) ・表現の統一(36.5⇒36.50) ・柱化した脈、カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した	33.65	37.15	33.65～37.15m:34.64m以浅はやや硬質主体、それ以深は硬質である。割れ目は傾斜30°～50°が主体であるが、一部でこれらに斜交～直交する50°～60°の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70°～90°の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、それ以深では砂状化しないものが主体である。 33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の柱化した脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない ・カリ長石の脈状濃集部は上記でまとめ書きしたため記載しない
103	33.78	34.05	33.78	34.05	(コアの形状欄)Ⅳランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	・断面に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	33.78	34.05	(コアの形状欄)Ⅳランク	-
104	34.00	34.00	34.00	34.00	60°、幅1～5mmの軟質な白色粘土脈が直線的でシャープに連続し、その下側側は34.22m付近まで風化で軟化している。	60°、幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的でシャープに連続し、その下側側は34.22m付近まで風化で軟質化している。	・実態に合わせて硬質な白色鉱物脈に変更した ・下側側が必ずしも下壁とは限らないため下側に変更した。 ・表現の適正化(軟質を)	34.00	34.00	34.00m:傾斜60°で幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下側側34.22m付近まで風化で軟質化する。	-
105	34.57	34.63	34.57	34.63	34.57m・45°～34.63m・65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟化(硬さB)。粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57m・45°～34.63m・65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟質化(硬さB)。粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	・表現の適正化(軟質を)	34.57	34.63	34.57m・45°～34.63m・65°間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが、若干砂状化する。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-
106	35.40	35.40	35.40	35.40	40° 周辺は70° 割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	40° 周辺は70° 割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	・文章の適正化 ・表現の適正化(伴う)	35.40	35.40	35.40m:傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し、径20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	-
107	35.42	38.95	35.42	38.95	(実質欄)3ランク	(実質欄)2ランク	・実質の程度がやや低い実質のランクを2ランクに変更した	35.42	38.95	(実質欄)2ランク	-
108	35.90	35.90	35.90	35.90	80° 低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	80° 低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	・表現の統一(軟質⇒軟質) ・文章の適正化(連続性がないことと脈状ではないことは同義であるため削除した)	35.90	35.90	35.90m:傾斜80°の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はない。	-
109	36.30	37.20	36.30	37.20	75°～90°の高角度割れ目は、所々で50°前後の割れ目で切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈ははさまない。	75°～90°の高角度割れ目は、所々で50°前後の割れ目で止められる。切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まれない。	・高角度割れ目が50°の割れ目と横断する箇所も多く見られるため「切られる」を「止められる」に変更した ・表現の適正化(所々、挟む)	36.30	37.20	36.30～37.20m:傾斜75°～90°の高角度割れ目が多く分布し、所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まれない。	-
110	36.37	36.37	36.37	36.37	45°のせん断性割れ目で、交差する75°～80°割れ目を切っている(変位量30mm、左列)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45°のせん断性割れ目は、交差する75°～80°割れ目を止めている(変位量30mm、左列)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・変位基準とした高角度割れ目は、一連の割れ目ではない(挟む物の種類が異なるため「切っている」を「止めている」に変更し、変位の記載を削除した) ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表現の適正化(挟む)	36.37	36.37	36.37m:傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75°～80°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
111	36.68	36.68	36.68	36.68	55° 幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目に切られるが、変位はない。	55° 幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。に切られるが、変位はない。	・石英脈は横断する割れ目でズレていないため「に切られる」を「と交差する」に変更し、変位の記載は削除した	36.68	36.68	36.68m:傾斜55°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。	-
112	36.80	37.00	-	-	75°～90°の高角度割れ目の中の幅2～4mmの砂はマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	36.80	37.00	36.80～37.00m:傾斜75°～90°の高角度割れ目に幅2～4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。	-

H24-D1-4 37.15～39.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☒						
113	37.15	39.60	37.15	39.41	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土脈を挟在することが多い。	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土脈を挟在することが多い。	・割れ目が多い区間(コア形状V主体)の記載のため下端深度を変更した(39.41m以降はコア形状IV) ・表観の適正化(沿い)。軟弱⇒軟質 ・下端深度を変更したため区間外の記載は削除した	37.15	39.41	37.15～39.41m:上位に比べ割れ目が多く、傾斜40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°の割れ目も分布する。37.15～37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。37.68～38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。38.95～39.41m間では割れ目が消滅することが多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・灰白色粘土の挟在については下記に具体的に記載した
114	37.18	37.68	37.15	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	・コアに合わせてマンガン鉱染を受けている上端深度を変更した	37.15	37.68	37.15～37.68m:マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色を呈する。	-
115	37.18	37.68	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR6/2灰褐	(色調欄)7.5YR5/1褐灰	・コアに合わせて色調を変更した	37.18	37.68	(色調欄)褐灰	-
116	37.68	37.89	37.68	37.89	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	37.68	37.89	(コアの形状欄)IVランク	-
117	38.01	38.12	38.01	38.12	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	38.01	38.12	(コアの形状欄)IVランク	-
118	38.12	38.20	38.12	38.20	割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	割れ目沿いに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	・表観の適正化(沿い)	38.12	38.20	38.12～38.20m:割れ目沿いに褐色化するが、岩片は劣化していない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
119	38.23	38.95	38.23	38.95	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	38.23	38.95	(コアの形状欄)IVランク	-
120	38.95	39.41	38.95	39.41	風化と変質で軟化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれ灰白～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	風化と変質で軟質化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれ灰白～にぶい橙色の軟質な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	・表観の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質)	38.95	39.41	38.95～39.41m:風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34～39.41mの間は、傾斜20～30°や60～65°で幅1～4mmの灰白～にぶい橙色の軟質な粘土脈が多く分布する。	-
121	38.95	39.41	38.95	39.41	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	・39.41～40.00mの割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級もCMに変更されたことにより、本区間長が90cm未満になったため周囲の岩級に含めた	38.95	39.41	(岩級区分欄)CMIに含める	-
122	39.41	39.60	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質でほぼ未風化。未変質である。	硬さBも含んでおり、硬質でほぼ未風化。未変質である。	・深部39.60～39.90mの記事と併せて記載したため削除した	-	-	-	-
123	39.41	40.21	39.41	40.21	(割れ目状態欄)aランク	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク	-
124	39.41	39.60	39.41	39.60	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク	・上位に比べて割れ目が少なく、コアの硬さも硬質なためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した	39.41	39.60	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
125	39.41	40.00	39.41	40.00	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	39.41	40.00	(岩級区分欄)CMI	-
126	39.50	39.50	39.50	39.50	20°幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して分布。	20°幅2～4mmの白色変質脈が分布。	・花崗斑岩の白色変質脈であるため変更した	39.50	39.50	39.50m:傾斜20°で幅2～4mmの白色変質脈を挟む。	-

H24-D1-4 39.41～41.62m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑			追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑					
127	39.60	39.90		39.41	40.00	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	39.41	40.00	39.41～40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
128	39.90	40.68		40.00	40.68	40～50° 割れ目がほぼV字に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土層を挟むが、分布は少ない。	40.00	40.68	40.00～40.68m: 傾斜40～50°の割れ目がほぼV字に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土層を挟むが、分布は少ない。	-
129	39.90	40.00		39.90	40.00	(コアの形状欄) Vランク	39.90	40.00	(コアの形状欄) IVランク	-
130	39.90	40.21		39.90	40.21	(コアの硬さ欄) Cランク	39.90	40.21	(コアの硬さ欄) Bランク	-
131	20.24	20.28		40.24	40.28	20.24m・40°～20.28m・45° 割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	40.24	40.28	20.24m・40°～20.28m・45°の割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	-
132	40.44	40.68		40.44	40.68	(割れ目状態欄) cランク	40.44	40.68	(割れ目状態欄) bランク	-
133	40.50	-		-	-	40.50m以降では硬さBと堅硬部も混入する。	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
134	40.50	40.68		40.50	40.68	(コアの硬さ欄) Cランク	40.50	40.68	(コアの硬さ欄) Bランク	-
135	40.68	41.20		40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度割れ目を境として硬さDの軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.53mまでやや風化しながら連続している。幅5～10mm程度の砂状～φ3～5mm程度の破砕塊状を呈している。割れ目は20～30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30°と70°前後の低密度割れ目も分布し、コア形状IVとする。割れ目の挟在物はない。	40.68	41.62	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度割れ目を境として硬さDの軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.53mまでやや風化しながら連続している。幅5～10mm程度の砂状～φ3～5mm程度の破砕塊状を呈している。硬さ部の隙に移動や回転は見られない。割れ目は20～30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30°と70°前後の低密度割れ目も分布し、コア形状IVとする。割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない 記事内容がほぼ同じであるため、41.20～41.62mの記事を含めて記載した
136	-	-		40.95	40.95	傾斜45°、幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	40.95	40.95	40.95m: 傾斜45°で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	-
137	41.20	41.62		41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85°の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土層は殆んど分布せず。高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟質粘土がわずかに付着する程度である。	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
138	41.52	41.62		41.52	41.62	40°と85°割れ目に囲まれて、φ5～10mmの角礫に破砕されて、締った砂質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。	41.52	41.62	41.52～41.62m: 傾斜40°と85°の割れ目に囲まれて、径5～10mmの角礫を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着せず、角礫状態は連続しない。	-

H24-D1-4 41.62～44.67m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒					
139	41.62	42.37		41.62	42.37	・表現の適正化(やや、ただし、沿い)	41.62	42.37	41.62～42.37m: 傾斜40～50° の割れ目が主体で、傾斜40～50° と80° 前後の低密着割れ目も多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土層などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55° の割れ目沿いの一部が径3～5mmで硬質細片化している。	・記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
140	41.92	41.92	-	-	-		41.92	41.92	41.92m: 傾斜40° で幅5～6mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺に径0.1mmの金属鉱物が晶出する。	-
141	42.37	42.61		42.37	42.61	・表現の統一(軟弱⇒軟質)	42.37	42.61	42.37～42.61m: 低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37～42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片も径10mm前後に細片化している。岩片間に軟弱で白色の粘土がごくわずかに付着している。	-
142	42.43	42.43		42.43	42.43	・60° 割れ目と斜交する深度42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに位置させているせん断性割れ目で、面上に条線が認められる。割れ目の挟在物是不連続で、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	42.43	42.43	42.43m: 傾斜60° の割れ目は、交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに位置させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物是不連続で、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
143	42.61	43.34		42.61	43.34	・表現の適正化(ほぼ、受け、伴う)	42.61	43.34	42.61～43.34m: 傾斜30～50° の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
144	43.39	43.39	43.29	43.29	55° 幅3～4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	・誤記の修正(43.39⇒43.29)	43.29	43.29	43.29m: 傾斜55° で幅3～4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
145	43.34	45.00		43.34	45.00	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	43.34	45.00	43.34～45.00m: 岩片は硬いが、低密着割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50～70° と、これに斜交・直交する30～60° が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟むものもある。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
146	43.34	43.34		43.34	43.34	・鉱物名を適正化(雲母⇒白雲母) ・文章の適正化(雲母片は晶出しないため、「片」を削除した)	43.34	43.35	43.34m: 傾斜55° の割れ目沿いが幅2mmで砂状化し、一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。43.35m: 上記の割れ目と平行に幅3～5mmの石英脈が連続する。	-
147	43.34	44.40		43.34	44.40	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	43.34	44.40	(割れ目状態欄)bランク	-
148	44.67	44.67		44.67	44.67	・65° 割れ目はせん断性割れ目で、交差する60° 割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する(変位量5mmをズレ)。 ・65° 割れ目は一部で屈曲するが、その部分のみみ合わせが良いためズレていないと判断して、「切つて」を「止めて」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目の挟在物及び割れ目周辺の状況について追記した ・表現の適正化(やや)	44.67	44.67	44.67m: 傾斜65° の割れ目は、交差する60° の割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H24-D1-4 44.83～47.67m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒					
149	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1～2mmの軟質白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1～2mmの軟質白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	44.83m: 傾斜60° の割れ目の一部に幅1～2mmの軟質白色粘土が付着する。	-
150	44.83	45.15	(割れ目状態欄)○ランク	44.83	45.15	(割れ目状態欄)○ランク	44.83	45.15	(割れ目状態欄)○ランク	-
151	45.00	45.45	60～70° 割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交～直交する40～60° 割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	60～70° 割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交～直交する40～60° 割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	45.00～45.45m: 傾斜60～70° の割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交～直交する40～60° の割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	-
152	45.15	45.45	(コアの形状欄)▽ランク	45.15	45.45	(コアの形状欄)▽ランク	45.15	45.45	(コアの形状欄)▽ランク	-
153	45.24	45.24	45° 幅2～18mmと膨縮して連続するが、母岩に対し、上端側の一部は割れ目化、下端側は密着する。	45.24	45.24	45° 幅2～18mmと膨縮して石英脈が連続するが、母岩に対し、上端側の一部は割れ目化、下端側は密着する。	45.24	45.24	45.24m: 傾斜45° で幅2～18mmと膨縮した石英脈が連続する。上端側の一部は割れ目化、下端側は密着する。	-
154	45.45	46.06	70～80° とこれに斜交～直交する40～60° 割れ目。低密着割れ目が主体。特に低密着割れ目が多く、約10～30mm間隔で分布している。堅硬な硬さBからなり、割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	45.45	46.06	45.45～46.06m: 傾斜70～80° とこれに斜交～直交する40～60° の割れ目。低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10～30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
155	45.81	45.81	45° 割れ目はせん断性割れ目で、直交する70° 割れ目を切っている(変位量4mm左ズレ)。	45.81	45.81	45° 割れ目のせん断性割れ目は、直交する70° 割れ目で横断される。を切っている(変位量4mm左ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.81	45.81	45.81m: 傾斜45° の割れ目は、直交する傾斜70° の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
156	46.06	46.31	上位から狭く硬さBで塊状(田)。互いに直交する60° 前後の割れ目からなる。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	上位から狭く硬さBで塊状(田)。互いに直交する60° 前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	46.06～46.31m: 互いに直交する傾斜50° 前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物は伴わない。	・記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
157	46.31	46.67	40～50° 割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。岩片は硬さBも含むが全体に○主体	-	-	-	46.31	46.67	46.31～46.67m: 傾斜40～50° の割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
158	46.31	46.53	(風化欄)△ランク	46.31	46.53	(風化欄)△ランク	46.31	46.53	(風化欄)△ランク	-
159	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.45～47.00mに85° の低密着割れ目が分布する。割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.45～47.00mに85° の低密着割れ目が分布する。割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	46.67～47.48m: 割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。46.85～47.00mに傾斜85° の低密着割れ目が分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
160	47.48	47.67	岩片はBと堅硬であるが、60～85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	-	-	-	47.48	47.67	47.48～47.67m: 傾斜60～85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-4 47.67～51.80m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報が正しく転記されているか? ☒					
161	47.67	48.52	47.67	48.52	40～50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化盛くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	・表観の適正化(沿い、狭む)	47.67	48.84	47.67～48.84m: 傾斜40～50° の割れ目が平行に分布し、傾斜40～50° ないし60～70° の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。	・傾斜40～50° の割れ目が平行に分布する区間をまとめて書きた ・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
162	48.17	48.17	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5～7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂を挟む。両側幅5～10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	・表観の適正化(狭む) ・鉱物名を適正化した(黄母⇒白雲母)	48.17	48.17	48.17m: 傾斜50° で幅5～7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5～10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	-
163	48.42	49.17	48.42	49.17	(割れ目状形態) cランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状のランクをbランクに変更した	48.42	49.17	(割れ目状形態) bランク	-
164	48.84	49.17	48.84	49.17	(コアの形状欄) Vランク	・下位より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	48.84	49.17	(コアの形状欄) IVランク	-
165	48.42	49.17	48.42	49.17	(岩級区分欄) CL	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	48.42	49.17	(岩級区分欄) CM	-
166	48.52	48.84	48.52	48.84	上位と同様。40～50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40～50° ないし60～70° で分布。両者とも砂。粘土脈ははさまない。	・表観の適正化(狭む)	-	-	-	・上記でまとめて書きたため記載しない
167	48.84	49.83	48.84	49.83	40～50° 割れ目。低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目沿いが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白～明黄褐色粘土脈をはさむ。	・表観の適正化(沿い、貫割⇒軟質、狭む) ・表記の修正(「色」の記載消滅)	48.84	49.83	48.84～49.83m: 傾斜40～50° の割れ目、低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白～明黄褐色の粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
168	49.83	52.07	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20～40° の割れ目が主体である。上端側の49.83～50.04mと50.24～50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下端側の50.04～50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂をはさむ。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	・コアに合わせて深度を変更した(50.04⇒50.03) ・表観の適正化(狭む、狭む) ・下端側が必ずしも下盤とは隣らないため下盤に変更した。	49.83	52.07	49.83～52.07m: 傾斜20～40° の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と調和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03～50.11m間は若干風化し、割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さや色調の深度の情報は記載しない
169	49.83	50.00	49.83	50.00	(色調欄) 7.5YR5/2灰褐	・コアに合わせて色調を変更した	49.83	50.00	(色調欄) 緑灰	-
170	50.81	50.81	50.81	50.81	40° のせん断性割れ目は、交差する55° 割れ目を切っている(変位量10mmを越す)	・変位基準とした55° の割れ目は、40° の割れ目と交差する箇所では上端側と下端側の傾斜が異なりして見えるが、コアの中心部では1枚の面を形成してそこではズレが見られないため「切っている」に置き換え、変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	50.81	50.81	50.81m: 傾斜40° の割れ目は、交差する55° の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められ、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
171	51.30	51.33	-	-	51.30m・38°、51.33m・47° の各割れ目にφ0.1mmと微細な金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出している。	-	51.30	51.33	51.30m、51.33m: 傾斜38°、47° の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	-
172	51.44	51.56	51.44	51.56	割れ目ぞいにも風化進む	・割れ目沿いの風化は認められないため削除した	-	-	-	-
173	51.44	51.56	51.44	51.56	(風化欄) αランク	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをαランクに変更した	51.44	51.56	(風化欄) αランク	-
174	51.80	51.80	51.80	51.80	25° 割れ目に方解石と推定される白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	・方解石ではないため削除した	51.80	51.80	51.80m: 傾斜25° で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	-

H24-D1-4 51.66～53.46m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容	
コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			適宜変更した情報が正しく転記されているか? ☒								
175	51.56	52.07	80°～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	51.66	52.07	80°～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	・傾記の修正(51.56⇒51.66。高角度の低密着割れ目の分布から傾記と判断) ・表現の統一(軟質⇒軟質)	51.66	52.07	51.66～52.07m:傾斜80～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 52.07～52.55m:径10～30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの軟質な灰白～白色の粘土脈からなる変質部である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
176	52.07	52.55	硬さEのφ10～30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの軟質な灰白色(5GY 8/1)～白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	硬さEのφ10～30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの軟質な灰白色(5GY 8/1)～白色粘土脈からなる変質部。	・表現に含わせて変更した	52.07	52.55	52.07m:傾斜45°で幅7～8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。	-
177	52.07	52.07	45°幅7～8mm、の白色硬質粘土脈は方解石と推定される。	52.07	52.07	45°幅7～8mmの白色硬質石英脈。	・表現に含わせて変更した	52.07	52.07	52.52m:傾斜25°で幅3～5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリブ灰色の幅2～3mmの軟質粘土を伴う。	-
178	52.52	52.52	25°幅3～5mmの白色硬質粘土脈は方解石と推定される。25°の方解石脈は明オリブ灰(5GY 7/1)の幅2～3mmの軟質粘土を伴う。	52.52	52.52	25°幅3～5mmの白色硬質石英脈。明オリブ灰色(5GY 7/1)の幅2～3mmの軟質粘土を伴う。	・表現の適正化(軟質⇒軟質)	52.52	52.52	52.55～52.97m:不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、径10～30mmに岩片化する。一部に幅0.5～1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
179	52.55	52.97	不特定方向の割れ目、低密着割れ目が多く、φ10～30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5～1mmの方解石脈や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈をはさむ。	52.55	52.97	不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、φ10～30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5～1mmの石英脈や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。	・表現の適正化(不特定方向⇒不規則な、軟質⇒軟質、挟む) ・表現に含わせて石英脈に変更した	52.55	52.97	-	-
180	52.97	53.46	破砕帯	52.97	53.46	破砕部	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部)			●52.97～53.46m:破砕部 52.97～53.05m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°、下端50°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な褐色灰粘土からなる。径1～2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05～53.10m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°で直線的に連続。下端はコア擾乱部で不明瞭。径1～3mmの石英粒。径5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30～40mm。 53.10～53.44m:粘土混じり角礫状部(Hj) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる。基質中には幅1～2mmの軟質な白～緑灰色粘土脈が傾斜10～50°で分布する。全体に緑灰～に灰白～灰白色を呈する。 53.44～53.46m:粘土質礫状部(Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白～緑灰色を呈する。幅4～12mmと膨縮する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
181	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGg岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の硬質粘土。厚さ40mm	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGg岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・厘主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
182	53.05	53.05	Hc-1(主せん断面) 45°、幅3mmで直線的でシャープに連続する。軟質な褐色灰(7.5YR 6/1)粘土。φ1～2mm石英粒を少量含む。	53.05	53.05	Hc-1(最新活動面) 45°、幅3mmで直線的であるが、連続しない。軟質な褐色灰(7.5YR 6/1)粘土。φ1～2mm石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・境界、細粒部の連続性・直線性について修正・追記した				
183	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続。φ1～3mm石英粒。φ5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の硬質粘土。厚さ30～40mm。	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続。φ1～3mm石英粒。φ5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ30～40mm。軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・厘主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上記の境界の修正に伴い、上端境界の記載を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	52.97	53.46		
184	53.10	53.44	Hj 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭。下端はやや波打って連続する。φ5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には幅1～2mmの軟質な白色(10Y 8/1)～緑灰色(5GY 5/1)粘土脈が10°～50°で分布する。全体的には粘土混じり角礫状で、緑灰(7.5GY 5/1)～に灰白(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/1)を呈する。厚さ40mm(コア長)。	53.10	53.44	Hj 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭。下端はやや波打って連続する。φ5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には幅1～2mmの軟質な白色(10Y 8/1)～緑灰色(5GY 5/1)粘土脈が10°～50°で分布する。全体的には粘土混じり角礫状で、緑灰(7.5GY 5/1)～に灰白(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/1)を呈する。厚さ40mm(コア長)。 53.44～53.46m:粘土質礫状部(Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白～緑灰色を呈する。幅4～12mmと膨縮する。	・角礫主体であるため破砕部内物質の名称を変更した(岩片状⇒角礫状) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、角礫構造部⇒角礫状部、軟質⇒軟質、混じり) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真値ではないため削除した				
185	53.44	53.46	Hc-2 上端45°、下端45°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。φ1mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGg岩片を少量含む軟質な灰白色(10YR 8/1)～緑灰(7.5GY 5/1)粘土。厚さ4～12mmと膨縮。	53.44	53.46	Hb 上端45°、下端45°で、上端はやや波打って漸移的。下端は直線的でシャープに連続。φ1mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGg岩片を少量含む軟質な灰白色(10YR 8/1)～緑灰色(7.5GY 5/1)の粘土質礫状部。厚さ4～12mmと膨縮。含まれる細粒部は直線的に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・厘主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・上端境界は一部Hjとの境界が不明瞭であるため「漸移的」を追記した ・上記のHjと同等の硬さであるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)				
186	53.44	53.46	(破砕度区分)Hc-2	53.44	53.46	(破砕度区分)Hb	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	53.44	53.46	(破砕度区分)Hb	-

H24-D1-4 53.46～57.75m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? ☒			追加変更した情報で正しく転記されているか? ☒						
187	52.46	53.68		53.46	53.68	軟しく軟化する。53.55m・55'・53.67m・70'の各割れ目に各々幅1mm、幅2～4mmの軟質な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土層をはさむ。	・脱記の修正(52.46⇒53.46、軟しく⇒著しく、「幅」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む)	53.46	53.68	53.46～53.68m:著しく軟質化する。53.55m・55'・53.67m・70'の各割れ目に各々幅1mm、幅2～4mmの軟質な緑灰色粘土層を挟む。	-
188	53.68	56.54		-	-	区間中央部の54.44～54.64mと54.98～55.41mは硬さDで、その上・下が硬さCで、コア形状は全区間でVとをクラッキーである。割れ目は30～40°とこれらに斜交～直交する60～80°割れ目と低密着割れ目が主体である。	-	53.68	56.54	53.68～56.54m:傾斜30～40°とこれらに斜交～直交する60～80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
189	-	-		53.89	53.89	傾斜20°、幅1～2mmの白色鉱物脈を挟み、その下位に幅10mmでカリ長石が濃集した脈を伴う。	・白色鉱物脈、カリ長石が濃集した脈は周囲と異なる状況であるため追記した	53.89	53.89	53.89m:傾斜20°で幅1～2mmの白色鉱物脈を挟み、その下位に幅10mmでカリ長石が濃集した脈を伴う。	-
190	55.41	-		55.41	-	55.41m以下では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。	・表現の適正化(沿い、軟弱⇒軟質、やや) ・表現の統一(圓結⇒硬質)	55.41	-	55.41m以下では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。	-
191	54.44	54.44		54.44	54.44	70°傾斜3～8mmで方解石脈が分布。上端側境界は割れ目化する。下端は母岩に密着しており、54.44mで65°せん断性割れ目に切られる。(変位差3mmをズレ) 65°のせん断性割れ目は、上記の方解石脈に横断される。を切っている変位差3mmをズレに割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・上端側が必ずしも上壁とは限らないため上端に変更した。下壁も同様。 ・方解石脈がズレているように見えるが、コア箱収納時にズレた人々のためのであるため「切られる」を「横断する」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	54.44	54.44	54.44m:傾斜70°で幅3～8mmの方解石脈を挟む。上端側境界は割れ目化する。下端は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
192	54.44	54.64		54.44	54.64	割れ目沿いに砂状化とφ5mm～10mmに細片化する。	・表現の適正化(沿い、mmの削除)	54.44	54.64	54.44～54.64m:割れ目沿いに砂状化と径5～10mmに細片化する。	-
193	54.44	54.64		54.44	54.64	(風化層)δランク (変質層)δランク	・風化の程度がやや弱く、変質の程度がやや強いため風化、変質のランクを変更した	54.44	54.64	(風化層)γランク (変質層)δランク	-
194	54.98	55.41		54.98	55.41	(風化層)δランク	・風化の程度がやや弱いため風化のランクをγランクに変更した	54.98	55.41	(風化層)γランク	-
195	54.98	55.00		54.98	55.00	(変質層)δランク	・変質の程度がやや強いため変質のランクをδランクに変更した	54.98	55.00	(変質層)δランク	-
196	-	-		55.07	55.07	傾斜55°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	・暗灰色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	55.07	55.07	55.07m:傾斜55°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	-
197	55.41	55.41		55.41	55.41	55°のせん断性割れ目で、上端側の20°割れ目、下端側の80°割れ目のいずれもが止まっている(変位量不明)。	・上端側が必ずしも上壁とは限らないため上端に変更した。下壁も同様。 ・せん断性割れ目としたものは途中でせん断しているため、せん断性割れ目ではないと判断して「止まっている」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	55.41	55.41	55.41m:傾斜55°の割れ目で、上端側の20°の割れ目、下端側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
198	-	-		55.80	55.80	傾斜60°、幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0～3mmの不連続な方解石脈を挟む。	・暗灰色粘土、方解石脈は周囲と異なる状況であるため追記した	55.80	55.80	55.80m:傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0～3mmの不連続な方解石脈を挟む。	-
199	56.18	56.23		56.18	56.23	56.18m・50'～56.23m・50'の各割れ目に囲まれてやや軟質化する	・表現の適正化(やや、軟質化)	56.18	56.23	56.18m・50'～56.23m・50'の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	-
200	56.54	56.57		56.54	56.57	上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で90～70°で大きく湾曲。下端は1ヶ所で屈曲してシャープに連続する。φ1mm前後の石英粒とφ5～10mmの粘土化した岩片を多く含む軟弱な白色の硬質粘土で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)～明褐色(7.5YR 7/2)でまだ模様を呈する。厚さは10～15mmで、粘土脈深部側の56.52m付近で粘土脈は2つに枝分かれする。	・変質部であるため「変質部」と追記した。 ・表現の適正化(箇所、軟弱⇒軟質、枝別れ⇒枝分かれ) ・変質部であるため変質部物質を変更した ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)	56.54	56.57	56.54～56.57m:変質部で直線的にシャープであるが、浅部側延長部で90～90°で大きく湾曲。下端60°で1箇所では屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5～10mmの粘土化した岩片を多く含む、軟質な白色の粘土質硬質部で全体の色調は灰白～明褐色で斑模様を呈する。幅10～15mmで、浅部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに枝分かれする。	-
201	56.77	57.63		56.57	57.63	硬さBで堅硬である。50～60°とこれと斜交～直交する20～60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角の低密着割れ目も分布する。	・脱記の修正(56.77⇒56.57) ・表現の適正化(同角⇒同角度)	56.57	57.63	56.57～57.63m:傾斜50～60°とこれと斜交～直交する20～60°の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
202	57.63	57.75		57.63	57.75	50～60°割れ目、低密着割れ目が5～10mm間隔で平行に分布し軟質化する。	・表現の適正化(軟質化)	57.63	57.75	57.63～57.75m:傾斜50～60°の割れ目、低密着割れ目が5～10mm間隔で平行に分布し軟質化する。	-